平成２５年度

年　　報

市立大町山岳博物館

平成 25 年度の活動から

館 長　宮野 典夫

市立大町山岳博物館の現在の建物は、旧建築基準法に則ったものですので、現在の耐震基準には適合していませんでした。そこで、平成 24 年度に耐震診断を行った結果、3 階とその下の柱の補強、３階の開口閉塞補強、１階トイレのコンクリートブロック壁の転倒防止等の処置をすることとなり、今年度に耐震補強工事を実施しました。また、この工事にあわせてユニバーサルデザイン化を進め、駐車場から博物館玄関までの階段に手摺を設置、玄関の自動ドア化、授乳室の設置、トイレの段差解消や設備充実等を行いました。

展示改修におきましては「北アルプスの自然と人」をテーマに、３階を「展望ラウンジ」、２階を「山の成り立ち」「山と生きもの」、１階を「山と人」のゾーンとし、３階から１階までご覧いただくことで、後立山連峰を中心とした大町市や、それを取り巻く大地の成り立ち、そこに生息する植物と動物の生活、山と人とのかかわりを知ることができるようにし、これらの展示を通して「自然と人とが共生する山岳文化」をメッセージとして伝えるようにしました。

リニューアルオープン前にはテレビＣＭや新聞への広告を掲載し、周知に努めました。また、博物館の公式ホームページも展示改修にあわせてトップページや下層構成を刷新し、リニューアルオープンの日から運用を開始しました。

耐震補強工事と展示改修事業を進めるにあたっては平成 25 年 11 月 4 日から平成 26 年 3 月 28 日までの間、臨時休館をさせていただきました。この間、博物館をご利用いただくことができず、市民をはじめ多くの方々にご迷惑をおかけいたしました。

資料の収集では寄贈により実物資料や図書資料を新たに収蔵することができました。また、購入や製作により化石や山小屋模型などを入手し、新しい展示を構成する資料となりました。

教育普及面では、くろよん 50 周年記念事業のひとつとして 7 月 27 日～9 月 1 日まで、特別展「黒部ダム・関電トンネル写真展」開催しました。昨年まで付属園で展開していた写生大会、観察ツアー、スタンプラリーを一連の催事とし、「付属園まつり」と称してゴールデンウィークに実施しました。恒例の「さんぱくこども夏期だいがく」も定員を上回る講座もあり、市民等に定着してきた感があります。特に本年度の大きな特徴として友の会との共催による事業に取り組んだことが挙げられます。博物館の学芸員と友の会の役員が協働で企画し、準備して実施したもので、「古道　塩の道を歩く―佐野坂峠越え　白馬から大町へ―」、「親子でライチョウ観察ツアー」「糸魚川世界ジオパーク探検ツアー」、「さんぱく座談会―もうすぐリニューアルオープン！地域の博物館・山博（さんぱく）について語り合いませんか？―」の４事業を行いました。いずれの事業も参加率も良く、好評でした。学校との連携・融合事業は臨時休館の間は博物館での授業ができなかったため、出張講座として学校へ出向いて行いました。

平成 26 年 3 月 25 日には、長野県環境保全研究所と連携・協力に関する協定を締結しました。これは長野県を特徴づける山岳域の自然とその環境保全にかかわる諸課題の解明や解決に力をあわせて取り組むことが、学術振興や自然環境保全、そして地域の発展に重要な役割を果たすことを深く認識し、目標達成への努力をするというものです。

当館の事業を推進するにあたり、多くの方々にお世話になり、お礼申し上げます。なお、本文中のお名前の敬称を、大変失礼ではありますが省略させていただきました。

Ⅰ　資料収集・保存管理事業

1　資料収集

(1) 新規収集資料

平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日の間に、寄贈または購入・製作によって次の資料を収蔵した。

①寄贈による収集資料

内訳は、化石資料（自然科学系）1 件 2 点、山岳資料、山岳図書資料、民俗資料（人文科学系）31 件 792 点である。

No.	受入日	資　料　名	数量	寄贈者	住　　所
1	5 月 2 日	山岳図書資料（アルプ他）	23 点	個人	神奈川県横浜市
2	5 月 10 日	山岳図書資料（山岳会報他）	90 点	㈱山と溪谷社	東京都千代田区
3	5 月 13 日	山岳資料（ハーケン）	1 点	個人	東京都府中市
4	5 月 16 日	民俗資料（前挽き大鋸）	1 点	個人	長野県大町市
5	5 月 20 日	山岳資料（ピッケル）	1 点	個人	神奈川県横浜市
6	6 月 28 日	山岳図書資料（屋久島山岳体系）	1 点	個人	鹿児島県熊毛郡屋久島町
7	7 月 2 日	山岳図書資料（THE ROOF OF THE WORLD）	1 点	個人	埼玉県鴻巣市
8	7 月 2 日	山岳図書資料（山域別登行記録索引他）	17 点	個人	千葉県市川市
9	7 月 23 日	山岳資料（アイゼン）	1 点	個人	岐阜県中津川市
10	7 月 24 日	山岳資料（打合電話機）	1 点	個人	千葉県千葉市
11	7 月 25 日	山岳図書資料（甲南高校山岳部報告他）	13 点	個人	兵庫県西宮市
12	7 月 29 日	山岳図書資料（中国関係書籍他）	9 点	個人	長野県長野市
13	7 月 31 日	山岳図書資料（みなかみ他）	132 点	個人	奈良県奈良市
14	7 月 31 日	山岳図書資料（白山単独越冬）	1 点	福井県山岳連盟	福井県福井市
15	8 月 20 日	山岳資料（登山靴）	1 点	個人	東京都府中市
16	8 月 22 日	山岳資料（運搬箱他）	2 点	個人	長野県北安曇郡松川村
17	8 月 29 日	山岳資料（ピッケル）	1 点	個人	兵庫県西宮市
18	9 月 4 日	山岳図書資料（大エベレスト展）	1 点	個人	兵庫県西川市
19	10 月 11 日	化石標本（富草層の貝化石）	2 点	個人	長野県大町市
20	12 月 11 日	山岳図書資料（シエリの詩集〈百瀬慎太郎贈〉）	1 点	個人	長野県長野市
21	12 月 12 日	山岳図書資料（日本列島大地図館他）	13 点	個人	長野県大町市
22	12 月 14 日	山岳資料（ピッケル）	2 点	個人	岐阜県中津川市
23	12 月 14 日	山岳資料（アルバム他）	2 点	個人	長野県大町市
24	12 月 16 日	山岳資料（リュックサック）	1 点	個人	長野県上田市
25	12 月 18 日	山岳資料（ピッケル）、民俗資料（背負子）	2 点	個人	長野県大町市
26	1 月 1 日	山岳図書資料（山嶺他）、山岳資料（登攀関係書類）	31 点	個人	東京都江戸川区
27	1 月 6 日	山岳資料（ピッケル他）	3 点	個人	大阪府八尾市
28	1 月 7 日	山岳図書資料（中信高体連登山部年報他）	208 点	個人	長野県松本市
29	1 月 9 日	山岳図書資料（八千米の上と下他）	103 点	個人	茨城県つくばみらい市
30	1 月 10 日	山岳図書資料（ペルーアンデス登山報告書）	2 点	富山県山岳連盟	富山県富山市
31	1 月 20 日	山岳図書資料（山岳会報他）	122 点	㈱山と溪谷社	東京都千代田区

②購入・製作による収集資料

内訳は、化石資料 11 点、哺乳類剥製標本 1 点、山岳資料 5 点である。

No.	受入日	資　料　名	数量	金額	入　手　先
1	7 月 4 日	化石（サメの歯）	1 点	180,180 円	購入：東京サイエンス
2	7 月 10 日	化石（サメの歯）	2 点	82,525 円	購入：東京サイエンス
3	8 月 16 日	化石（恐竜糞石・フウインボク・リンボク）	3 点	100,000 円	購入：ゼネラルサイエンスコーポレーション
4	1 月 9 日	化石（イノセラスホベツエンシス）	1 点	46,987 円	購入：文楽
5	1 月 15 日	化石（スピノサウルス歯・三葉虫）	2 点	69,846 円	購入：ゼネラルサイエンスコーポレーション
6	2 月 20 日	化石（三葉虫・アンモナイト）	2 点	13,000 円	購入：Atomic Soul
7	11 月 29 日	ニホンジカ剥製	1 点	699,300 円	製作：尼ヶ崎剥製
8	3 月 13 日	山小屋再現模型（縮尺 30 分の 1）	5 点	498,750 円	製作：株式会社オーサン模型

2　資料保存管理

(1)　収蔵資料

①自然科学系資料

分類名および点数		自然科学系　　合計　11,631 点	
菌類（液浸標本）	129 点	哺乳類（剥製・骨格標本）	237 点
蘚苔類（乾燥標本）	674 点	鳥類（剥製標本）	651 点
維管束植物（液侵標本）	7 点	昆虫（標本ドイツ箱）	166 点
維管束植物（さく葉標本）	＊6,000 点	昆虫（未標本作製資料を含む）	＊1,000 点
魚類（液浸標本）	62 点	昆虫（液浸標本）	27 点
両生爬虫類（液浸標本等）	72 点	その他液浸標本(調査研究資料)	103 点
貝・甲殻類（液浸標本）	13 点	岩石・化石	2,490 点

②人文科学系資料

分類名および点数		人文科学系　　合計　9,185 点	
山岳	7,328 点	寄託（山岳、美術）	527 点
民俗	928 点	（寄託内訳）	
美術	189 点	個人寄託　362 点※	
美術（尾竹正躬関係）	201 点	※うちﾋﾟｯｹﾙ関係　93 点	
歴史	12 点	団体寄託　165 点	

③本館図書室に収蔵されている自然科学系図書資料

分類名および点数		自然科学系　　5,680 点	
自然科学系一般図書資料	5,522 点	自然科学系一般ＡＶ資料	158 点

④山岳図書資料館に収蔵されている人文科学系図書資料

分類名および点数		人文科学系　　28,455 点	
人文科学系一般図書資料	22,344 点	人文科学系一般ＡＶ資料	218 点
山岳資料としての図書資料（注[1]）	5,893 点		

（注[1]）山岳図書資料としての図書資料 5,893 点は、②人文科学系の山岳資料 7,328 点に含む。

⑤収蔵資料の点数

総計 49,058 点（平成 26 年 3 月 31 日現在）

⑥現状と課題

中長期を見据えた主体的・積極的な資料の収集計画が明確ではなく、現状として資料収集の方法は相手方からの資料寄贈・寄託の申し出に大きく依存している状況である

a. 自然科学系

地質分野の岩石・鉱物・化石、動物（剥製）資料については資料カード（紙ベース）および最低限の検索・照会作業のＰＣ検索ができるように整理されている。

b. 人文科学系

資料収集については、一次資料に関して未登録資料の新規追加登録作業を順次進めている。

また、図書資料・二次資料の整理も同様である。登録済み資料に関しても、資料情報の追記ほか、記録写真が未撮影のものや作図が未添付のものはそれらの作業を段階的に進めたい。

収集方法については、特段の予算処置を行っておらず、寄贈・寄託の申し出を受けて収集にいたる場合が主であるが、近年の寄贈件数が過去平均の 3 倍程度となっており、寄贈件数は急激な増加傾向にある。そのため、資料整理作業が追い付いていない状況にある。過去の未登録資料を含め、年度ごとに計画的・効率的に集中して整理作業を完遂させたい。当面の目標として、資料整理用紙をもとにした収蔵資料目録を作成し、公開できるように努めたい。

(2) 保存管理

本館における資料保存管理については、防虫剤をパラジクロロベンゼンからエンペントリンに代替中である。ただし、開放空間では空間体積に対して有効量に達しないために殺虫効果が低く、殺卵効果はないため、定期的なシフェノトリンによる簡易ガス燻蒸を展示室 7 回、収蔵スペース 5 回の燻蒸を実施した。

現在、資料の保存環境は好ましくない。ＩＰＭ（Integrated Pest Management）＝総合的有害生物管理に移行させるため、館内への有害昆虫類・塵などの侵入対策として、一部館入口扉の改良工事を今年度計画していたが、建物の耐震診断の結果をみてからの施行なり延期となった。展示ケースや収蔵スペースの床壁面を含め、気密性を持たせた保存環境空間の確保、あるいは全館規模での防塵・防虫対策など、施設面の抜本的な改善が課題である。

山岳図書資料館は気密性の高い構造であり、入口に前室があることで昆虫類の侵入を防ぐことができる。また、除湿器が設けられていて約 65%以上になった場合には自動的に除湿が開始される。資料の搬入前には、浸透性の高いフッ化スルフリル系製剤（ヴァイケーン薬剤）により 24 時間の包み込み燻蒸を行った。

Ⅱ　調査研究事業

1　調査研究

(1) 爺ヶ岳におけるライチョウ生息域内の山岳気象観測（担当：清水博文）

平成22年9月22日よりライチョウの生息域である爺ヶ岳に温度・湿度・日射量を計測するデータロガを設置して観測を継続している。年間の最高気温は、平成25年8月15日12時00分の21.6℃、最低気温は、平成26 年2月6日0時00分の-23.3℃であった。

2　共同研究及び調査研究の協力

(1) 長野県版レッドリスト改訂のための調査（担当：千葉悟志）

長野県版レッドリスト改定に伴い、平成24年より植物専門部員に委嘱されたことにより、担当区域（大北地域）での調査を実施した。調査は、前回実施された調査票をもとに、1～4名で行い、月に2～4回程度とした。調査は、写真・地点（GPS）おおよその株数などを記載し、県に報告（約100件）した。

調査には、「大北地域の湿地植物の生活史研究グループ」メンバーにご協力いただいた。

Ⅲ　教育普及事業

1　展示

(1) 常設展示展示改修（全体調整：清水隆寿）

a.　展示改修工事

展示改修施工業務は随意契約により(株)乃村工藝社と大町市とで、平成24年12月13日～平成26年3月30日の履行期間で委託契約の締結を行い、具体的な施工業務にとりかかる。

平成25年7月12日より乃村工藝社との展示設計図面をもとに、展示に供するグラフィック、造形制作、映像等のソフト制作、造作工事、電気工事等について博物館の要望を取り込んで頂きながら、乃村工藝社において詳細設計や造作工事を進め、一方博物館側は展示資料の確定をし、キャプションの作成作業を実施する。

今回の展示改修において、本館の展示テーマを「北アルプスの自然と人」として、北アルプスの大自然を一望し、北アルプスに生息する動植物や山と人との関わりを学べる施設とした。

見学順路もこれまでとは変更し、3階から順に2階、1階へと巡りながら、北アルプスに関する自然科学の分野を学んだ後、人との関わりを考える人文科学分野を学べるような基本計画に則って、3階を「展望ラウンジ」として、2階常設展示室には「山の成り立ち」のコーナーの新設、2階常設展示室「山と生きもの」のコーナーに新たに、「大町市の気象」「カモシカ」「ライチョウ」の展示を増設。今回の展示改修の中心である1階常設展示室は、コーナー名を「山と人」として北アルプスとそこに暮らす人々の関わりを時代の変遷とともに学べるようにした。

定期的に乃村工藝社との調整会議を開催し、11月より3月末までの間は博物館を閉館して、乃村工藝社と博物館側で構成作業、展示資料の配置の確認を行い、乃村工藝社による設置作業にとりかかり施行作業を開始する。また博物館側はその間、実物資料あるいは写真資料等の借用者名簿の作成及び借用者への使用許諾願、著作権の確認などを進める。なおコーナー名のみであるが各階とも英語表記を、大町市EAT教師のCiero　Anthony　Edward氏に依頼し、掲載を行った。

1 階展示では、新たに映像「山での生活」「大沢小屋の変遷」「北アルプスと人とのかかわり」を設置し、また山小屋展示模型5点を、上田市の㈱オーサン模型に依頼し作成する。作成料500, 000円。

展示改修に係る展示改修施工業務　総経費　68,670,000円

展示設計・施行　東京都港区　株式会社 乃村工藝社

ｂ．式典ほかの開催

リニューアルオープンに先駆け、3 月 17 日～28 日まで市役所ロビーにおいて、新たな展示を紹介するパネル展を開催。

リニューアルオープンに先立ち、山岳博物館リニューアルメディア関係内覧会を、3 月 23 日と 25 日に開催した。なお 23 日午前中には大町市観光課によるボランティア研修会を、23 日午後には山岳博物館友の会解説ボランティア研修会を合わせて開催した。

リニューアルオープン式典は、平成 26 年 3 月 29 日に開催。当日、午前 9 時 30 分より式典（式辞・来賓祝辞・展示概要説明・テープカット）及び新展示見学会を開催。招待者を含む式典参列者は約 130 人。

ｃ．山岳博物館ロゴの変更

今回の展示改修に併せて、博物館のロゴマークを新たに 2 種類新設する。

ｄ．総合パンフレット・ポスター・チラシの発行

リニューアルオープンに先立ち、標記の総合パンフレットを刷新し関係機関に配布を行う。

e．展示解説書の発行

常設展「北アルプスの自然と人」人文科学系展示解説書『山と人　北アルプスと人とのかかわり』を、展示改修に合わせ、平成 26 年 3 月 29 日付発行する。（担当：関）

f．ホームページのリニューアル

平成 26 年 3 月 29 日より新たな展示に合わせて、以下のウェブサイトに変更した。（担当：千葉）
URL：http://www.omachi-sanpaku.com

(2) 常設展示

メインテーマを「北アルプスの自然と人」とし、「自然と人とが共生する山岳文化」を山岳博物館からのメッセージとして伝える。

①展示テーマおよび展示資料点数　総計 1,057 点（平成 26 年 3 月 31 日現在）

内訳（自然科学系　合計 505 点、人文科学系　合計 552 点）

展示テーマ	資料点数※[1]	展示テーマ	資料点数※[1]
３階　展示室　「あなたと山のかかわり 展望ラウンジ」ゾーン			計 104 点
大町のプロフィール	24 点	大町の空からマップ	1 点
後立山連峰のパノラマ	1 点	山頂の石たち	5 点
北アルプス後立山連峰の山々	20 点	雪形の伝承	27 点
山の伝説	7 点	「北アルプスの自然と人」映像	1 点
つながりプロローグ	18 点		
２階　ホール　「山の成り立ち」ゾーン			計 67 点
水の惑星・地球 46 億年の生い立ち	23 点	日本列島の生い立ち	1 点
驚きのフォッサマグナ	19 点	驚きの北アルプス	23 点
北アルプスの生い立ち	1 点		
２階　展示室　「山と生きもの」ゾーン			計 433 点
立山の氷河・いまを生きる生物	3 点	里山から高山までの生物	235 点
ニホンカモシカ	13 点	ライチョウ	32 点
渓谷の生物	35 点	湖の生物	60 点
湿原の生物	55 点		
１階　展示室　「山と人 北アルプスと人とのかかわり」ゾーン			計 423 点
山の魅力	7 点	北アルプスと人とのかかわり年代記	7 点
峠を越える ―針ノ木峠の歴史―	38 点	山に暮らす ―山の恵みと山村の暮らし―	84 点
山に祈る ―山の信仰―	19 点	「山と人」映像	1 点
大町山岳人列伝	10 点	山を測る ―測量―	5 点
山を調べる ―博物学―	23 点	山を描く ―絵画―	8 点
山を写す ―写真―	21 点	山で学ぶ ―日本の近代登山―	144 点

山に住まう ―山小屋の変遷―	28 点	登山の道具	23 点
山とのかかわりの窓		つながりコラム	5 点
１階　エントランス・ホール			計 8 点
「北アルプスの自然と人」導入	1 点	山とわたしたちの未来	
新・對山館サロン	1 点	こどもひろば	6 点
１階　特別展示室　「山と美術 ―山岳風景画とウッドシャフトピッケル―」※[2]			計 22 点
山岳風景画	16 点	ウッドシャフトピッケル	6 点

※[1] 点数には、実物資料のほか、写真・図表グラフィックなどの図版資料と映像資料を含む。
※[2] 特別展示室の展示については、特別展・企画展開催時には各テーマで展示替えを行う。

(3) 企画展示

①特別展「黒部ダム・関電トンネル写真展」（担当：宮野典夫）

a. 会　期：平成 25 年 7 月 27 日（土）～9 月 1 日（日）　※開催日数：37 日間

b. 会　場：特別展示室

c. 主　催：市立大町山岳博物館　くろよん 50 周年実行委員会

d. 概　要：平成 25 年 6 月に黒部ダム完成 50 年、同年 8 月に関電トロリーバス開通 50 年を迎えるのを契機として、「くろよん 50 周年記念事業実行委員会」を中心に、全国に発信するための記念イベント等が行われた。そのひとつとして市内外各地でも開催された「くろよん 50 周年イベント巡回写真展」を開催し、常設展とともにご覧いただいた。

e. 展示資料：黒部川第四水力発電所建設工事等の記録写真の展示と「北アルプスの成り立ちについて」のＤＶＤ上映による紹介。

f. 入館者数：3,323 人（有料 3,147 人、無料 176 人）

(4) 移動展示

①安曇野アートライン推進協議会「第 9 回安曇野アートライン展」への参加と協力

（担当：清水隆寿）

a. 会　期：平成 25 年 11 月 23 日(土・祝)～12 月 25 日（水）

b. 会　場：国営アルプスあづみの公園〈堀金・穂高地区〉多目的ホール（安曇野市）

c. 概　要：安曇野アートライン推進協議会に加盟する美術館・博物館所蔵の作品や、各館の紹介パネルなどを、本年度は国営アルプスあづみの公園〈堀金・穂高地区〉のみで展示。公園の来館者に安曇野のアートにふれていただいた。山岳博物館は尾竹正躬作の「春を描く」「爺ヶ岳」「小谷の夏」「仁科城址」「立山の秋」「無題」「スキー場」の 7 点を出品。

2　教育普及活動

(1) 学習会等の開催

①ふぞくえんまつり（担当：関悟志・清水博文・清水隆寿・戸谷諭美・尾関美穂・木戸きらら）

a. 開催日：平成 25 年 4 月 27 日(土)～4 月 29 日(月･祝)
5 月 3 日(金･祝)～5 月 6 日(月･祝)（延べ 7 日間）

b. 場　所：山岳博物館 付属園

c. 参加者数：延べ 535 人（子ども～大人）
（内訳）「どうぶつ写生大会」60 人※（子ども）
※写生大会については後日、学校授業での参加あり（東小 2 年生 26 人）
「どうぶつ観察ツアー」129 人（子ども 38 人、大人 91 人）
「ふぞくえんスタンプラリー」346 人

d. 概　要：付属園内の展示動物や風景を描く「写生大会」、展示動物を解説しながら園内を巡る「観察ツアー」、展示動物を絵柄にした手作りスタンプを押して集める「スタンプラリー」の 3 つの催し。山岳博物館では、開館間もない昭和 28 年頃から動植物を飼育栽培する付属園（動植物園）を屋外に併設し、希少野生動植物の保護増殖や調査研究を行うとともに、北アルプスの山麓から高山に生息する生物を飼育栽培して、生体展示などの教育普及を行っている。また、平成 9 年度から大

北地域周辺の野生傷病鳥獣を救護収容している。付属園にかかわる市民対象の各種催しを実施する期間を「ふぞくえんまつり」と称して各催しを実施することで、付属園と飼育動物を身近に感じ、親しみを持っていただくとともに、傷病鳥獣の救護などの活動についても広く周知し、付属園の役割について理解を深めていただいた。これにより、大町市周辺地域の野生動物や自然環境への関心を高めていただくことを目的とした。

e. **所　見**：「どうぶつ写生大会」は昭和62年度（同年度以降、日動水中部ブロック写生コンクール参加）から、「どうぶつ観察ツアー」は平成18年度から（21年度までは「山博おもしろミニゼミ　動物ウォッチング」）、「ふぞくえんスタンプラリー」（24年度までは春夏秋の年3回）は平成19年度から、それぞれ毎年実施してきている。市民、特に小学生以下の子どもを対象に、昨年度まで個々の事業として実施していた上記の付属園に関わる教育普及事業を「ふぞくえんまつり」という名称を冠してまとめ、同時期に実施した。今年初めての実施であったが、期間中に報道関係7団体の取材があり、特にSBCでは夕方のニュース放映で取り上げられた。また、催し案内のリーフレット（カラー用紙に印刷機で印刷）を市内小学校の全児童に学校を通じて配布した。これらから、効率的で有効的な告知・周知といった広報活動を行うことができた。市キャラクターの着ぐるみを活用し、来園者への参加呼び掛けや、子どもを中心とした参加者との交流を行ったが、子どもから大人まで大変好評であった。期間中、500人を超える延べ参加者があり、付属園の役割や飼育展示する野生動物の特性について広く知っていただく大変良い機会となった。

ア　どうぶつ写生大会（担当：清水博文・清水隆寿）

付属園の飼育動物や園内風景を画題に写生し、野生動物の特徴をとらえるとともに、動物愛護の精神を高めて命の大切さを知っていただいた。写生大会終了後、全参加作品は「どうぶつ写生画展」として博物館にて展示後、各園校を通じて返却した。また、優秀作品33点を選出し、日本動物園水族館協会中部ブロック写生大会に応募した。

a. **共　催**：日本動物園水族館協会中部ブロック

b. **後　援**：日本動物園水族館協会

c. **参加作品数**：86点（園児18点、小学生67点、中学生1点）なお、作品数には後日行われた、学校授業での参加を含む。

d. **概　要**：日本動物園水族館協会中部ブロックが目的としている児童・生徒の動物愛護精神を高め、描画教育並びに、文化の向上と親善をはかることをかんがみ、大町市内や周辺の幼稚園・保育園の園児、小・中学校の児童・生徒を対象にして、動物を観察して親しみながら写生を楽しむ機会とした。作品は第58回中部ブロック動物園水族館写生大会への応募を行う。

e. **所　見**：日本動物園水族館協会が開催する同写生大会への参加は、山岳博物館としては本年で26回目となる。本年度の写生大会参加者内訳は、未就学児・保育園・幼稚園合わせて20人、小学生が78人と昨年度比1割強の参加者の減少となった。盛会時には150人を超える参加者があったが、近年の生徒数の減少を考慮し、来年度以降これまで定数となっていた表彰者数も改めていく必要を感じている。また館内議論の中で、動物写生画展自体の存続も議論されているところであるが、年間を通じてこれだけの市内の子供たちが博物館に集まる機会は少なく、今後は写生大会と様々な関連イベントと組み合わせて開催することで魅力を高めて実施していきたい。

f. **関連事業**

・どうぶつ写生画展

「大町山岳博物館　どうぶつ写生画展」として、参加作品すべてを6月22日（土）～7月7日（日）（延べ16日間）に山岳博物館講堂で展示した。

・写生画審査会

5月23日（木）に市内小中学校の先生6人による審査で、長野県知事賞ほか32点を選出した。

・写生画表彰式

写生画表彰式は7月7日（日）午後4時から山岳博物館講堂において執り行い、荒井教育長、宮野館長よりそれぞれ賞状と盾を授与した。

イ　どうぶつ観察ツアー

来園者と一緒に飼育員・学芸員が付属園の飼育動物を解説しながら園内を回ることで、見学効果を高め、飼育動物や付属園の役割を理解していただいた。

ウ　ふぞくえんスタンプラリー

付属園内に設置したオリジナルスタンプを楽しみながら押して集めることで、見学効果を高め、飼育動物や付属園に親しんでいただいた。

②さんぱくこども夏期だいがく（担当：小坂共栄・清水博文）

a. **開催日**：平成25年8月1日（木）・2日（金）

ア「大地のなぞさがし」

8月1日（午前9時30分～11時30分）

イ「川原の昆虫さがし」

8月2日（午前9時30分～11時30分）

b. **場　所**：博物館講堂（ア）及び高瀬川河川敷（イ）

c. **参加者数**：延べ48人（ア.29人、イ．19人）

（ア）化石標本を事前に準備し、「体験する」ということを第一の目的に、岩石のなかから鉱物を取り出しルーペで観察したり、化石や宝石でペンダントを作製した。

（イ）川原の昆虫を観察することにより、自然環境の変化や人との関わり合いなどについて考え、昆虫の体のつくりや、卵から成虫になるまでの変態について学んだ。

d. **所　見**：ア.については、昨年の岩石同様募集定員をはるかに上回り、参加人数を増やしたことによりこまめな対応ができず、人数を制限したほうがよかった。また、内容についても詰め込みすぎず、的を絞ってゆとりを持たせ、関心を継続させるような参考図書を紹介していくことなどが今後の課題である。アンケートから、こどもは「これは、こうだ」などと教えるより「やってみた」という体験が大事で、それが満足感につながることが伺えた。

イ.については、ほぼ定員の参加人数であった。昆虫という題材は、小学生が関心を持ち積極的に参加しやすいものだったが、体のつくりのスケッチは低学年には少し難しかったようなので、内容や解説方法等は改善が必要である。

③古道 塩の道を歩く ―佐野坂峠越え 白馬から大町へ―(担当：関悟志・清水隆寿・千葉悟志)

a. **共　催**：大町山岳博物館友の会

b. **開催日**：平成25年6月16日(日)

c. **場　所**：白馬村神城佐野～大町市平森

d. **参加者数**：14人（一般参加者9人・友の会会員5人）（内訳：大人14人）

e. **概　要**：大町山岳博物館友の会では平成19年に日本海をスタートし、西回りコースによって北から南へ毎年リレー形式で千国街道「塩の道」をたどってきた。13回目となる今年は、山岳博物館と友の会の共催事業として開催し、友の会会員のほか、大町市民の皆さんにも広く参加していただける催しとして実施した。今回は、佐野坂峠を越え、白馬村から大町市へと入る約 12 kmのコースを約7時間かけてゆっくりと歩いた。当日は、コース上の各ポイントで講師から解説を受けて、往時の街道筋の様子を想像しながら古道を散策し、塩の道の歴史と民俗について学ぶことを目的とした。

f. **所　見**：地域の歴史・民俗を広く知っていただく良い機会になった。なお、本事業は今年はじめて友の会との共催という形で実施し、今回は友の会で従前から実施してきたテーマで事業実施したが、今後、取り上げるテーマは山岳博物館ならではの「北アルプス」を中心としたものを検討する必要があると考える。各探訪ポイントでは講師に詳しく説明いただき、千国街道をめぐる往時の様子や当時の人びとの信仰心や価値観などにふれることができた。また、同行した博物館の学芸員が、親海湿原の概要説明や道中の草花などのほか、仁科神社の概要説明や仁科三湖周辺の遺跡や文化財などについて説明を行った。さらに、参加者の宮澤洋介友の会会長からは途中、佐野坂峠や仁科三湖周辺の地形・地質や災害の歴史などについて説明いただき、ダイナミックな大地の様子も知ることができた。このように、塩の道の歴史・民俗のほかにも、千国街道沿いの人文・自然科学両面から多方面にわたる幅広い分野について解説を行うことができ、友の会と博物館とが共催した良い面があらわれ、参加者に具体的なメリットが還元される結果となった。一般参加者はほぼ定員となり、博物館や友の会の活動をあらたな方々に知っていただけた。同時に、友の会会員拡大に向けた一助となったと考える。一方、友の会会員の参加者が定員の6割であったことと、一般参加者の内訳をみると大町市民が5割弱であったことから、当初計画した事業目的の対象者の興味・関心を十分にひくことができなかった。当日のスタッフとして、博物館職員と友の会運営部員が、それぞれ2～3人の人員を出し合い、下見を含めて役割分担したほか、経費面でも両者で負担し合うことで、より効率的な事業実施が行えた。

④親子でライチョウ観察ツアー　（担当：千葉悟志・宮野典夫・清水隆寿・関悟志）

a. 共　催：大町山岳博物館友の会

b. 開催日：平成 25 年 8 月 4 日(日)

c. 場　所：立山室堂

d. 参加者数：22 人（友の会会員）

（内訳：大人 17 人、小学生 2 人、幼児 3 人）

e. 概　要：大町山岳博物館では、昭和 39 年から平成 16 年の 40 年間、ニホンライチョウの低地飼育研究を行ってきた。この度は、その飼育に長年携った宮野典夫山岳博物館館長と一緒に、大町市の鳥でもあるライチョウとはいったいどのような鳥なのかを 50 周年を迎えた黒部ダムを経て、立山室堂の大自然の中で実際に観察を行い、高山環境への理解を深めていただく機会とした。なお、本事業は、黒部ダム 50 周年を記念して行った。

f. 所　見：一般に、ライチョウとは、どのような鳥であるのかは、あまり知られていないものと考えられるなかで(参加者の 76.9%が「名前だけは知っている」と回答)、実際にフィールドへ出て、ライチョウや生息環境を観察し、加えて山岳博物館がこれまで研究してきた成果を踏まえた解説は、長年、研究を続けてきた博物館だからこそ実施可能な事業であり、ライチョウを通した高山環境への学習効果は高かったものと思われる。

　達成度は、73.3%と高いが、当初、募集対象とした親子での参加者数は少数で、実際には二次募集（大人のみでの参加も可能とした）によって参加人数が増加した。これは、実施日が「やまびこまつり」などの翌日であったことが影響した可能性も考えられるが、子育て世代にとって設定金額は、安価（通常料金（大人）11,200 円（信濃大町駅-室堂往復）のところ、7,500 円）であるとわかっていても、親子（こども 3,500 円）での参加費となれば、大きな出費としてとらえられた可能性がある。また、子育て世代がライチョウや立山の自然に関心が低かった結果なのかもしれない。

⑤糸魚川世界ジオパーク探検ツアー（担当：小坂共栄・千葉悟志・清水隆寿・関悟志）

a. 共　催：大町山岳博物館友の会

b. 開催日：平成 25 年 10 月 14 日(月・祝)

c. 場　所：フォッサマグナパーク～親不知海岸～フォッサマグナ・ミュージアム

d. 参加者数：43 人（一般 18 人・友の会会員 25 人）

（内訳：大人 36 人、小学生 7 人）

e. 概　要：博物館では昨年、小学生におくる企画展「大地はなぞだらけーフォッサマグナ・北アルプスおいたちのなぞー」を開催し、私たちがすむ大地にはたくさんのふしぎがまだまだ残されていることを紹介した。また、大地はいまでも活動的で、それによってもたらされる自然災害についても再認識をしていただいた。この度は、フォッサマグナ・糸魚川－静岡構造線について実際に野外で観察し、それらの理解を深めていただくことを目的とした。

f. 所　見：

　バスによる移動時間が長かったため、専門員のみからの解説だけでなく、今年度実施行事のアンケート結果から、異なる切り口から解説が好評であったことから、専門員以外にも人文科学系の学芸員に同行願い、人とのかかわりについて解説を取り入れた。また、車内移動時間を有意義に過ごしていただくため、行事に関連したクイズやビンゴゲームの開催を実施した。応募者が定員を超えたこと、また、アンケート結果から、行事内容に多くの参加者が満足していただけたものと考えられ、行事目的である「フォッサマグナ・糸魚川－静岡構造線」への理解、さらには、災害についての理解を深めていただくことができた。

⑥さんぱく座談会 ーもうすぐリニューアルオープン！　地域の博物館・　山博(さんぱく)について語り合いませんか?ー

（担当：関悟志・千葉悟志）

a. 共　催：大町山岳博物館友の会

b. 開催日：平成 26 年 3 月 9 日(日)

c. 場　所：大町公民館分室 2 階 講堂

d. 参加者数：31 人（一般参加者 5 人・友の会会員 26 人）

（内訳：大人(大学生 1 人、高専生 1 人含む)30 人、高校生 1 人）

e. 概　要：山岳博物館では、常設展示の改修工事のため、平成 25 年 11 月 5 日から翌 26 年 3 月 28 日まで臨時閉館し、3 月 29 日(土)にリニューアルオープンした。オープンに先がけ、各展示コー

ナーや具体的な展示資料など、新しい展示のみどころを市民の皆さんにご説明した。あわせて、博物館を支える外郭団体「友の会」の活動発表を行った。これらの話題提供をふまえ、参加者全員による座談会を行い、博物館や友の会について自由に意見交換した。自然と人とが共生する「山岳文化都市」おおまちの未来へ向けて、その中核を担う地域の博物館“山博(さんぱく)”の将来像を参加者同士で語り合うことを目的とした。

f. 所　見：創立 60 周年事業のひとつとして、平成 23 年度から 24 年度にかけて、「山岳博物館のこれからを考える会」を立ち上げ、全 4 回の懇話会を開催した。その際、市民・地域住民から公募した委員からは、博物館の運営について継続的に意見・提案を行なえる機会を設けてほしいという希望が出された。そうした必要性から、今回、参加者全員の発言機会が多くなるワールド・カフェ形式による座談会を実施した。協議会という場はあるが、一般の方や友の会の会員から直接、博物館の運営について意見・提案をいただくことは、今後の事業実施の計画立案に大いに役立つ。また、館で現在行っている事業を自己評価する上でも、出された意見・提案は指標のひとつとなる。事前申込みは 15 人であったが、当日は想定参加者数の 30 人を超えた。さらに、10 代・20 代の参加者 4 人があり、幅広い年代層からの貴重な意見がいただけた。当日のスタッフとして、博物館職員と友の会運営部員が、それぞれ 2 人の人員を出し合い、役割分担したほか、経費面でも両者で負担し合うことで、より効率的な事業実施が行えた。

(2) 学校との連携・融合（調整：関悟志）

期　日	内容（館外の実施場所）	対象校・学年など	人数	指　導
5 月 16 日	カワニナ学習会（大町東小周辺）	大町東小 3 年	42	清水博
5 月 17 日	社会科学習・遠足	美麻小 3・4 年	12	宮野、関
5 月 23 日	見学実習	東京ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｱｰﾄ専門学校 1・2 年	31	宮野、戸谷
5 月 28 日	総合的な学習　雪形について	大町西小 3 年 1 組	25	関
6 月 5 日	自然観察学習　動植物について（青木湖キャンプ場）	大町西小 5 年	48	清水博
6 月 18･19 日	職業体験学習　動物飼育	八坂中 3 年	2	戸谷、尾関
6 月 21 日	総合的な学習　植物について	大町西小 3 年 1 組	25	千葉
6 月 25･26 日	職業体験学習　動物飼育	第一中 2 年	2	戸谷、尾関
6 月 27 日	登山事前学習　展示説明	第一中 2 年	103	清水隆、千葉、関
6 月 27 日	自然観察学習　動植物について（青木湖キャンプ場）	池田小 5 年	40	清水博
6 月 28 日	総合的な学習　魚について	美麻中 2 年	8	清水博
7 月 12 日	総合的な学習　化石について	美麻中 2 年	3	清水博
7 月 18 日	総合的な学習　動物について	大町西小 3 年 1 組	25	宮野
7 月 18 日	農具川のホタルについて(上花見橋付近)	第一中 3 年 1 組	6	清水博
7 月 19 日	総合的な学習　動植物・雪形・山岳・登山について	仁科台中 1 年 2 組	4	清水博、関
7 月 23 日	トンボ学習会（大町東小周辺）	大町東小 3 年	42	清水博
7 月 24･25 日	職業体験学習　動物飼育	白馬中 3 年	2	戸谷、尾関、木戸
8 月 1 日	野外実習　身近な自然・湿原について（親海湿原）	大町高 2 年（理数科）	42	千葉
9 月 3 日	総合的な学習　農具川について（上花見橋付近）	第一中 3 年	6	清水博
9 月 4 日	総合的な学習 付属園･動物について	仁科台中 1 年 4 組	4	宮野
9 月 4・5 日	職業体験学習　動物飼育	仁科台中 2 年	2	戸谷、尾関、木戸

9 月 27 日	総合的な学習 山の歴史･民話について	大町西小 3 年 1 組	25	関
10 月 2 日	社会科学習・土地利用	大町北小 3 年	66	清水隆、関
10 月 3 日	理科・大地のつくりと変化 （中山高原・地層見学）	大町西小 6 年 1 組	32	小坂
10 月 10 日	理科・大地のつくりと変化 （中山高原・地層見学）	大町西小 6 年 2 組	31	小坂
10 月 17 日	学校との連携授業（理科）	大町南小 4 年	67	宮野、清水博
10 月 22 日	理科・大地のつくりと変化 （中山高原・地層見学）	美麻小 6 年	12	小坂
10 月 29 日	総合的な学習　付属園・館内見学	大町西小 3 年 1 組	25	関
10 月 30 日	総合的な学習 大町の生き物について	大町西小 3 年 2 組	25	清水博
10 月 30 日	学校との連携授業（社会科）	大町南小 4 年	67	清水隆、関
11 月 5 日	理科・火山灰の観察 （中山高原・地層見学）	美麻中 1 年	12	小坂
11 月 21･22 日	職業体験学習　動物飼育	美麻中 2 年	2	戸谷、尾関、木戸
12 月 3・4 日	職業体験学習　動物飼育	大町北高 1 年	2	戸谷、尾関、木戸
2 月 3 日	学校との連携授業（社会科）	大町西小 4 年	56	関
2 月 27 日 ～3 月 9 日 ※3 月 4 日除く	動物飼育研修（個人研修）	酪農学園大学 1 年	1	清水博、戸谷、 尾関、木戸
3 月 10 日	学校との連携授業（理科）	八坂小 4 年	10	清水博
3 月 11 日	学校との連携授業（社会科）	八坂小 4 年	10	関
実施回数：37 回（延べ 51 日）		学校数：16 校 （延べ 37 校）	人数合計：917 人 （延べ 936 人）	

①「学校との連携授業」（市内小学校の博物館活用事業）（担当：関悟志）

a. **実施日**：上記のとおり　※10～3 月の間に、市内 4 小学校により延べ 7 日(8 回)実施

b. **場　所**：理科：第 2 展示室（2 階）・講　堂（1 階）・付属園（屋外）、学校の教室
社会科：第 1 展示室（1 階）・展望室（3 階）、学校の教室

c. **参加者数**：市内小学生 349 人（4 年生）※このほか各小学校教諭引率

d. **概　要**：学校教育と社会教育との連携・融合（学社連携・融合）推進のひとつとして、博物館の展示を利用した学校との連携授業を実施。平成 22 年度から 2 ヶ年、大町南小学校をモデル校に 4 年生の理科授業（動物）を年 1 回実施し、授業プログラムやワークシートを作成して検証・改良を行った。そうした試行期間を経て、24 年度から新たに実施希望校を募り、市内小学校の博物館活用事業を本格実施している。

これにより､実施校数を広げるとともに複数の教科の学習プログラムを作成して実施回数を増やし、博物館を利用した小学校での各教科授業の定着をめざす。

同時に、博物館の所蔵資料や専門員・学芸員といった職員を学校の授業で活用していただくことで、児童・生徒の学習理解度の向上が期待でき、市民により身近な博物館をめざす。

・連携授業：プログラム 1　理科・4 学年「生き物のくらし」「人の体のつくりと運動」
（学習素材：ライチョウ、ニホンカモシカ、ツキノワグマ）

・連携授業：プログラム 2　社会科・4 学年「郷土に伝わる願い」（学習素材：百瀬慎太郎）

e. **所　見**：2 年の試行期間を経て、昨年度から実施希望校を募って本格実施した事業である。事業実施に際し、市内小学校の理科担当教諭等が集まる市科学振興会理事会にて本事業の事前説明を行っ たほか、市内校長会で説明依頼を行い、実施希望校の受け付けを行った。その結果、市内小学校全 6 校のうち、4 校（北小学校、美麻小学校以外）から希望があり、理科と社会科の授業を計 8 回実施した。本年度は展示改修工事（11～3 月）により館内での学習が実施できない場合には、出

張授業として対応した。しかし、各学校の授業進度状況や校外活動予定によっては、実施へ向けた調整が難しい場合もあったようである。事業全体では、過去の反省点などを活かした形で内容を改善して作成してきたプログラムとワークシートによって効果的に実施できたので、必要かつ有効な事業と考える。

今後は、本年度希望がなかった学校（2校）にも実施していただけるように働きかけ、市内小学校全6校で完全実施していただけるようにしたい。そして、博物館を利用した各教科の授業を小学校に定着させたいので、今回の改善点を加味した内容で来年度以降も引き続き拡充・継続して実施したい。

(3) 博物館実習の受入（調整：関悟志）

期　日	実 習 者	人員(人)	指導
7月30日(火) ～8月3日(土) 計5日間	山梨英和大学人間文化学部4年 信州大学人文学部文化コミュニケーション学科4年 帝京大学文学部教育学科初等教育学専攻初等教育コース4年	3	宮野・清水博文・小坂・清水隆寿・千葉・関

博物館法第5条（学芸員の資格）第1項第1号の規定により、学芸員の有資格者となるために大学で修得すべき博物館関係科目単位の一つである博物館実習を希望する大学生の受け入れを行った。当館での学芸員実習（博物館実習）は博物館における実践的な側面の学習を主眼におき、実習を実施した。教育普及を中心に資料整理や受付業務等の博物館業務全体について実習を行い、地方における地域博物館の役割を体験的に学習していただいた。

近年の傾向と同様、本年度も、県外出身・在住の学生が中心であった。これは、「山岳」をテーマにした博物館である当館での実習を希望したためで、全国的にもユニークなテーマの当館が実習先として学生に選ばれた結果である。また、学生が受け入れ先の博物館等を探すことは困難のようで、毎年受け入れ実績がある当館への学生のニーズは高いことがうかがえる。そうした全国の実習希望の学生とのマッチングの手法として、文部科学省が平成21年に示した「博物館実習ガイドブック」を参考にして、今年度初めて、当館での博物館実習の実施計画をHP上に公開した。本年度の申込者のほとんどが、このHP上の情報を確認して照会を行っており、有効であった。一方、当館としては博物館実習を教育普及活動の一環として位置づけ、生涯学習支援・社会教育の推進につながるものとして実施している。また、学生へ指導することによって、自らが担当している業務について役割や意義をあらためて見直す機会にもなる。実施方法として、実習の実施に際して各担当者と調整し、実習期間中の1日ごとの詳細な学習計画を作成し、事前に実習生に送付したことで、指導担当職員と学生の両者で個々の実習日の概要について把握できたので効果的であった。

(4) 学習会等への協力（調整：関悟志）

期　日	内容（館外の実施場所）	主　催	参加者	指　導
6月29日	初心者のための山野草講座（平公民館）	平公民館	20	千葉
7月6・7日	平公民館登山（常念岳）	平公民館	20	清水博文
7月30日	夏休み特別企画　昆虫教室（大町市児童センター）	大町市児童センター	37	清水博文
8月20日	夜間の昆虫観察（旧山の子村）	信州･大町山の子村キャンプ	30	清水博文
9月26日	すくすく広場	大町公民館	60	関
10月19・20日	放送大学面接授業　フィールドで学ぶ山岳科学と防災（市内現地ほか）	放送大学長野学習センター	25	小坂
11月6日	八坂にすむ動物について	育てる会	1	清水博
1月16日	県自然保護レンジャー・自然保護インストラクター研修会（大町合同庁舎）	北安曇地方事務所環境課	50	宮野
実施回数：8回（延べ10日）		団体数：7団体（延べ8団体）	人数合計：243人（延べ288人）	

上記以外に、下記の各種事業に協力した。

①雪形まつり（担当：清水隆寿）

北アルプス雪形まつり実行委員会では、心豊かな子どもたちを育むことを通し、情操文化の一層の振興を願って、第12回北アルプス雪形まつりを開催した。

当館も雪形まつり実行委員会に加わり、雪形ウォッチング部門の展示及び企画を担当した。

a. **会　期**：平成25年5月11日(土)～6月9日(日)（30日間、その間無休で開催）
午前10時～午後5時（1日7時間の開場）

b. **会　場**：キャラリーい～ずら(二階展示場)

c. **見学者数**：約450人

d. **概　要**：キャラリーい～ずらの展示場で、雪形写真パネルの展示と雪形ビデオ上映をし、「雪形写真展」を実施し解説を行った。

e. **関連事業**

・雪形講演会　平成25年6月2日(日)
あづみ野雪形研究会・会長の渡辺逸雄氏による雪形講演会を開催
演題は「北アルプスあれこれ」(1時間30分)　参加者数：10人

・「雪形ウォッチング」　北アルプス各地の雪形現地見学会ということで、本年度は期間中10回計画をするが、天気等の都合により、以下の5日実施した。
実施日：5月12日（日)、18日（土)、6月1日（土)、2日（日)、9日（日）
なお6月2日（日）のみマイクロバスを利用する。　合計参加者数：31人

②市民登山（担当：関悟志・清水博文）

a. **開催日**：平成25年8月24日（土）～25日（日）

b. **場　所**：針ノ木岳・蓮華岳

c. **参加者数**：20人

d. **概　要**：市体育課社会体育係で開催した第63回大町市民登山のしおりの原稿協力と自然観察指導という立場で館職員が1名参加した。

e. **所　見**：針ノ木大雪渓上をルートに、針ノ木岳と蓮華岳の登山を実施した。雪渓上では、雪渓に棲む特有な昆虫や山中に飛翔する鳥類の話などを行なった。

③信州・大町　山の子村キャンプ　福島の子どもたち保養プログラム（担当：宮野典夫）

福島第一原子力発電所の事故に伴う放射能の汚染被害を受けている子とも達に、心身の保養をしていただく環境を大町に整えて過ごすことを目的とした信州･大町 山の子村キャンプ実行委員会に加わり、昆虫観察、白馬八方尾根の自然観察解説等を担当した。

a. **会　期**：平成25年8月17日(土)～8月23日(金)

b. **会　場**：旧山の子村を中心に、大町市総合福祉センター、鷹狩山、白馬八方尾根、安曇総合病院、安曇野ちひろ美術館、薬師の湯等

c. **参加者数**：小学生18人、中学生1人、保護者及びスタッフ3人

d. **概　要**：保養プログラム 3 回目となり、今回の山の子村キャンプでは、体験型メニューを　いくつか用意して、その中から「自分の好きなこと」「とことんやりたいこと」を自分で選んで仲間と遊びながら体験することを主眼とした。白馬八方尾根への自然観察会なども行い、充実感が味わえるように配慮した。希望者には安曇総合病院にて血液検査と触診による甲状腺検査を行った。

e. **所　見**：子どもたちは、充実した時を過ごすことができ、感想としては楽しさだけでなく、嫌いな野菜が食べられるようになったことや、虫が平気になったことなどがあり、保護者からは良い体験をして成長した姿で戻ってきた旨のたよりをいただいた。

(5) **テレビ・ラジオへの出演**（調整：清水博文）

放送日	放送局名	番組名	形　態	内　容
6月10日 11日	テレビ信州 日本テレビ系	ＴＳＢ ＮＥＷＳ報道ゲンバ 朝のニュース	収録による出演	バッタの体色（清水）
6月18日	エフエム石川	Ｗａｎｎａ Ｈａｐｐｉｎｅｓｓ！！	電話による生出演	博物館紹介（宮野）

7月2日	ＳＢＳ（静岡）ラジオ	ほのぼのワイド 中村こずえの smile for you	電話による生出演	ライチョウ（宮野）

(6) 博物館資料の特別利用（調整：関悟志）　※山岳図書資料を除く。館外利用（貸出等）のみ

期　間	目　的	利用者	利用資料・点数
4月1日～　※長期貸出	常設展示	京都市動物園	カモシカ骨格標本2点
	教育普及	新潟県	ライチョウ剥製2点
	常設展示	富山市科学博物館	ライチョウ剥製1点
4月20日～5月20日	情報誌掲載	まちなみカントリープレス	雪形写真データ4点
5月30日	情報誌掲載	プラネットライツ	山岳資料写真データ23点
8月30日	研究会誌掲載	佐々成政研究会	「山と博物館」記事（転載）
11月12日～2月5日	企画展示	名古屋大学博物館	山岳資料ほか6点
1月17日～2月20日	企画展示	井上靖文学館	山岳資料ほか2点
3月3日～3月10日	試験使用	製品評価技術基盤機構製品安全センター	山岳資料1点
4月19日～	ｳｪﾌﾞｻｲﾄ掲載	やませみ舎	雪形ほか写真データ12点
4月26日～7月21日	企画展示	北アルプス展望美術館	「山と博物館」記事（転載）

このほかにも社会教育施設・研究機関・個人などによる各種照会や報道機関・雑誌編集社などによる各種取材などがあり、随時これらに協力した。

(7) 山岳図書資料館の利用（調整：清水隆寿・関悟志）

開館日数	利用者数			資料閲覧	資料貸出	
	市内	県内	県外	件数	件数	点数
197日	14人	10人	49人	66件	7件	38点
	計73人					

3　執筆・出版

(1) 出版

①新規出版物

a.『山と博物館』（担当：清水隆寿）

昭和31年2月に『やまと博物館』として創刊（昭和32年1月『山と博物館』に改題）。毎月、多分野の方々に原稿を寄せていただき、北アルプスを中心とした山岳の自然や歴史などの「山岳文化」と博物館の活動について広く情報発信を続けている。毎月25日発行、発行部数1,000部。体裁A4判、二ツ折4頁、単色刷り。定価100円。年間購読料1,500円（送料含む）。

なお、第59巻第3号（4月号）より山岳博物館リニューアルに合わせて『山と博物館』の体裁を新たなものに変更し、リニューアルの広報を兼ねて当該巻のみカラー印刷刷り、無料で全戸配布を行った。

平成26年3月31日現在、購読者数は459人で有料164人、無料273人。

本年度中に発行した『山と博物館』の各号は以下の通り。

巻号	月	頁	題　　名	著 者
584	4月	①	黒部ダム50周年を迎えて	吉藤学
		②～④	「くろよん」の話	岩見孝之
585	5月	①	ホタルの舞う故郷を夢見て三十年	高橋利雄
		②～④	「あっ、地震だ！」その時、どうする？ ―2011年6月30日発生の「長野県中部の地震」に学ぶ―(その一)	小坂共栄 津金達郎

586	6月	①	「塩博」から「塩の道ちょうじや」へ再出発	黒川惠理子
		②～④	「あっ、地震だ！」その時、どうする？ ―2011年6月30日発生の「長野県中部の地震」に学ぶ―(その二)	小坂共栄 津金達郎
587	7月	①	私の山を想えば	百瀬堯
		②～④	にっぽんに「山の日」をつくろう ―山岳五団体の制定運動が目指すもの―	成川隆顕
588	8月	①	くろよん 50 周年記念事業 特別展「黒部ダム・関電トンネル写真展」の開催にあたって	清水隆寿
		②～④	写真でたどる「黒部ダム・関電トンネル建設の歴史」	清水隆寿
589	9月	①	双方の発展を目指して ―博物館と友の会の試み―	千葉悟志
		②～④	画家たちが描いた観光ポスター ―昭和30年代を中心に―	千田敬一
5810	10月	①	信州 山の日 ―長野県の「山」を考えるかい。―	栩秋隆哉
		②～④	ニホンライチョウの危機とその保全にむけた動物園との繁殖研究	楠田哲士 山本彩織
5811	11月	①	高瀬川の思い出	高橋利雄
		②～④	北アルプス山麓の希少魚類	北野聡
5812	12月	①	調べる 受け継ぐ 育てる	三ツ井仁
		②～④	木崎湖は学術的自然遺産	赤澤寛
591	1月	①	豊穣の地	松原繁
		②～④	日本のヒマラヤ登山今昔	山森欣一
592	2月	①	『ミツバチ大量死は警告する』を読む	宮田渡
		②～④	山と自然保護 ―自然のもつ意味―	渡辺隆一
593	4月	①	全館をリニューアルいたしました	宮野典夫
		②	さんぱく研究最前線―北アルプスの自然と人 トピックス― 「日本のライチョウは生き残れるか？―地球温暖化による危機―」	(山岳博物館編)
		③ ④	博物館のひろば 展示・イベントのご案内	(山岳博物館)

(敬称略)

b．年報（担当：清水博文・清水隆寿）

『平成 24 年度年報』（発行日：平成 25 年 8 月 31 日、発行部数：200 部、体裁：A4 判、47 頁、単色刷り）を編集・発行した。

c．『市立大町山岳博物館 常設展「北アルプスの自然と人」
山と人 北アルプスと人とのかかわり ―人文科学系 展示解説書―』（担当：関悟志）

常設展示の改修にあわせ、1 階フロアを中心として、人文科学系の展示テーマ「山と人　北アルプスと人とのかかわり」における常設展について解説する展示解説書を編集・発行した（発行日：平成 26 年 3 月 29 日、発行部数：1,000 部、体裁：A4 判、186 頁、ﾓﾉｸﾛ・ｶﾗｰ）

②販売中の出版物

現在、販売中の当館編による出版物は以下の通り。（平成 26 年 3 月 31 日現在）

書　　名	発行先	発行年	備　考
山と博物館	市立大町山岳博物館	毎月 25 日	年間購読、館内販売 ※H26.3 発行の 4 月号から無料配布
常設展　山と人 北アルプスと人とのかかわり	〃	平成 25 年	館内にて販売中
H24 企画展　大地はなぞだらけ	〃	平成 24 年	〃
H24 企画展　スイス山岳観光の黄金期と日本人	〃	〃	〃
北アルプス登山史資料 2 ―白馬岳周辺登山史―	〃	〃	〃
H23 企画展　山岳を科学する 2011	〃	〃	〃
H21 企画展 高山の自然は今…	〃	平成 21 年	〃

展示案内　北アルプスの自然と人	〃	平成 17 年	〃
ブルーガイド旅読本 上高地 安曇野 輝ける大地の自然と人	実業之日本社	平成 14 年	書店にて販売中
新･北アルプス博物誌	信濃毎日新聞社	平成 13 年	〃
ライチョウ 生活と飼育への挑戦	〃	平成 4 年	〃
カモシカ 氷河期を生きた動物	〃	平成 3 年	〃

4　インターネット・ウェブサイト

(1) 公式ウェブサイト（担当：千葉悟志）

平成 26 年 3 月 29 日より下記のウェブサイトに変更した。

URL：http://www.omachi-sanpaku.com

新規契約にかかるサーバーレンタル料およびドメイン料は、大町山岳博物館友の会が負担し、運用を当館が行っている。

(2) 外部ウェブサイト（担当：関悟志）

市、安曇野アートラインの各ウェブサイトを管理し、掲載情報を逐次更新していく。なお、展示や催しの各情報は、基本的に「広報おおまち」の掲載内容や「情報提供書」の記載内容とした。

①市ウェブサイト

施設概要、企画展・特別展のお知らせ、イベントのお知らせについて掲載し、開館時間・休館日・利用方法等の案内、現在開催中または今後開催予定のイベントや企画展や特別展の情報を随時発信している。

URL：http://www.city.omachi.nagano.jp/00027000/00027010.html

②安曇野アートラインウェブサイト

当館が加盟する安曇野アートライン推進協議会では、平成 17 年 5 月にウェブサイトの運用を開始し、平成 18 年 9 月にサイトを充実させてリニューアルしているが、平成 24 年 7 月にサイトの全面リニューアルを行った。ここでは当館所蔵の山岳風景画など絵画を中心に紹介し、当館公式ウェブサイトとリンクさせて企画展やイベント情報などを随時発信している。

URL：http://www.azumino-artline.net/oomachi/

5　広報

(1) 大町博物館連絡会発行博物館めぐり案内図（担当：清水博文）

大町博物館連絡会は市内加盟館 10 館で構成されている。「おおまち博物館めぐり案内図」はＢ４縦カラーで平成 24 年 5 月に 5 万部発行したものを、近隣のホテル・旅館・観光案内所などに配布した。

6　友の会（担当：千葉悟志）

大町山岳博物館友の会は大町山岳博物館を通して、会員の知識の向上をはかると共に、山岳博物館の種々の事業に協力することを目的とし、自然観察会、例会・講演会、会報の発行、博物館の事業に参加協力する団体である。

(1) 組織

①役員

a. **会　長**　宮澤洋介

b. **副会長**　有川美保子、西沢泰夫

c. **運営部**　部長：川崎晃　副部長：宮田京子
　　部員：塩瀬淳也、丸山優子、栗林稔、中畑清貴、朝重孝治、
　　高野淳子、横沢裕美、仙波美代子（こまくさ担当）

d. **編集部**　部長：丸山卓哉　　部員：宮澤洋介、岑村隆、五十川渡

e. **事務局**　千葉悟志、仙波美代子(こまくさ担当)、宮野典夫、清水博文、清水隆寿、関悟志

小坂共栄

f．アドバイザー　川崎裕子

g．監　査　越山頼子、瀬戸口三栄子

h．顧問　　千葉彬司、長沢正彦

②構成（平成 26 年 1 月 31 日現在）

会員種別	会員数	会員種別	員数	会員種別	員数
ﾌｧﾐﾘｰ会員	234 人(66 ﾌｧﾐﾘｰ)	個人会員	63 人	学生会員	1 人
賛助会員	1 団体･1 人	終身会員	2 人	名誉会員	3 人
合　計	305 人				

(2) 運営部

①行事

実施日	参加者	行事名・実施場所など
平成 25 年 2 月 3 日(日)	募集人員 25 人 参加者数 6 人 参加率 24.0%	カンジキを履いて、動物達の森を歩いてみよう！（ﾊﾟｰﾄ２）（於：森のくらしの郷付近）
平成 25 年 2 月 17 日(日) ～3 月 31 日(日)	6 人	友の会作品展 （於：ﾐｭｰｼﾞｱﾑｶﾌｪこまくさ）
平成 25 年 3 月 10 日(日)	28 人 （役員含む） 30 人 （役員含む）	記念講演会（山博共催） 「アーネスト・サトウと武田久吉」 金子 靖夫 氏（日本ﾏｽ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学会会員） （於：大町公民館分室・学習室） 平成 25 年度　友の会総会 （於：大町公民館分室・学習室）
平成 25 年 6 月 16 日(日)	募集人員 20 人 参加者数 14 人 参加率 70.0%	古道塩の道を歩く 佐野坂峠越え　白馬から大町へ
平成 25 年 8 月 4 日(日)	募集人員 30 人 参加者数 22 人 参加率 73.3%	宮野典夫館長といく 親子でライチョウ観察ツアー （於：立山室堂）
平成 25 年 10 月 14 日 （月･祝）	募集人員 40 人 参加者数 43 人 参加率 107.5%	小坂共栄専門員といく 糸魚川世界ジオパーク探検ツアー（於：糸魚川市）

(3) 編集部

①「ゆきつばき通信」の発行

号数	発行日	主な内容
156 号	平成 25 年 4 月 15 日(月)	行事案内（古道・塩の道、博物館行事） 報告（冬の自然観察会・記念講演会ほか）
157 号	平成 25 年 7 月 1 日(月)	行事案内（ﾗｲﾁｮｳ観察ﾂｱｰ、博物館行事） 報告（古道・塩の道）（ｻｰｸﾙ烏帽子の会・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの会）
158 号	平成 25 年 9 月 3 日(金)	行事案内（世界ｼﾞｵﾊﾟｰｸ、長野県行事、ﾐｭｰｼﾞｱﾑｶﾌｪｺﾝｻｰﾄなど） 報告（ﾗｲﾁｮｳ観察ﾂｱｰ）（ｻｰｸﾙ烏帽子の会・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの会）

(4) 喫茶「こまくさ」の営業

営業期間は平成 25 年 4 月 16 日(火)～11 月 4 日(月)。１階ホール隣での飲み物及び物品販売のサービス提供。

(5) サークル活動

①烏帽子の会

山歩きのサークル。平成 26 年 1 月 31 日現在、会員 22 人。

月　日	内　　容	参加	月　日	内　　容	参加
2 月 23 日(日)	真木(小谷村)	8 人	7 月 27 日(土)	風吹大池(小谷村)	8 人
3 月 16 日(土)	根子岳(菅平高原)	13 人	10 月 12 日(土)	子檀嶺岳(青木村)	11 人
5 月 18 日(土)	角蔵山(安曇野市堀金)	10 人	12 月 14 日(土)	茅ヶ岳(山梨県北杜市)	16 人

① ボランティアサークル

山岳博物館の活動を支援するグループ。平成 26 年 1 月 31 日現在、会員 28 人。※は延べ人数

月　日	内　　容	参加
3月 10 日(日)	総会記念講演会場設営	26 人
4 月 21 日(日)	湿原植物園の整備・サクラソウポット内の除草など	7 人
4 月 26 日(金)	2 階テラス湿原植物園の管理・鉢植え	1 人
4 月 27(土)～5 月 6 日(月・祝)	写生大会受付・館内ガイド(※)	8 人
5 月 6 日(日)	JR 信濃大町駅周辺栽培展示のサクラソウ運搬(駅へ)	10 人
5 月 13 日(月)～27 日(月)	JR 信濃大町駅周辺栽培展示のサクラソウへの灌水(※)	19 人
6 月 1 日(土)	JR 信濃大町駅周辺栽培展示のサクラソウ運搬(山岳博物館へ)・プランター片付け・2 階テラス花鉢植え	14 人
6 月 2 日(日)	針ノ木岳慎太郎祭自然観察ガイド	4 人
6 月 6 日(木)～29 日(土)	JR「旅市」旅行者への館内ガイド(※)	3 人
6 月 14 日(金)	館内ガイド	1 人
7 月 21 日(日)	湿原植物園および館周辺の除草	9 人
8 月 18 日(日)	湿原植物園および館周辺の除草	6 人
9 月 15 日(日)	湿原植物園および館周辺の除草	10 人
10 月 20 日(日)	ミュージアムカフェこまくさコンサート会場準備・片付け	9 人
10 月 31 日(木)	団体への館内ガイド	1 人
11 月 1 日(金)	湿原植物園および 2 階テラス越冬準備	2 人
11 月 10 日(日)	研修会(飯田市美術博物館・飯田市動物園)	16 人

7　ライチョウ会議（担当：清水博文）

(1) ライチョウ会議

ライチョウ会議（議長：信州大学教育学部 中村浩志教授）は、日本アルプスとその周辺に生息するライチョウに関する情報交換と、調査及び研究の連携を図ること、ライチョウに関する知識の普及と啓発を行うことを目的として設置された組織である。当館はその事務局を議長より委嘱されており、会議の運営にあたる事務連絡、諸経費の管理を行っている。また、館長が構成員となっている。構成員の運営によって年 1～2 回程度会議を開催（構成員として館長出席）し、事務局として当館では、会議開催の調整・通知、会議資料作成などの事務を行っている。

(2) 第 14 回ライチョウ会議山梨大会

ライチョウ会議大会は、大会開催地の関係者を中心に実行委員会を組織して年 1 回開催している。事務局として当館では、大会実行委員長ならび実行委員会事務局と連携して、名義後援依頼や報告書作成などの事務を行っている。この大会では、各分野の研究者・行政等が集まり、ライチョウに関する調査・研究の充実と、現状を把握し具体的な保護活動に結びつけるための意見交換などを行い、連携を強めるとともに、ライチョウについての知識の普及・啓発を行っている。そして、ライチョウをはじめとした野生動植物の生息環境を含めた保護と、人との共存の道を探ることにつなげるために毎年開催されている。

14 回ライチョウ会議山梨大会は南アルプス市を会場に平成 25 年 11 月 3 日～5 日に開催された。

1 日目、2 日目のワークショップでは下記により研究発表や意見交換がなされた。
第１部　南アルプスと北アルプスにおけるライチョウの生息状況
第２部　乗鞍岳など独立峰における生息状況
第３部　温暖化によるライチョウへの影響と高山帯へのシカなどの野生動物の侵入による植生への影響
第４部　生息地での保護対策（域内保全）
第５部　動物園でのスバールバルライチョウの飼育・繁殖（域外保全）
第６部　「種の保存法」によるライチョウの保護増殖事業について
2 日目の公開シンポジウムでは「鳥を通じて地球環境を考える-バードライフ・インターナショナルの活動-」と題して高円宮妃久子殿下による特別講演の後、ライチョウ保護と高山環境の保全についてのパネルディスカッションが行われた。
3 日目はエクスカーションとして櫛形山へのトレッキングを行った。

8　ボランティア活動（担当：清水博文）

博物館友の会にボランティアサークルが組織されたので友の会関係は除く。

月　日	内　容	個人･団体名	参加者
4 月 29 日(日)	博物館周辺清掃活動	天理教	70 人

Ⅳ　動植物飼育栽培繁殖事業

1　動物飼育繁殖（担当：清水博文・関悟志・戸谷諭美・尾関美穂・木戸きらら）

付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やしたり、研究をしたりしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培・飼育し、生きている姿を見てもらうという考え方を大切にし、以下の基本方針を定めている（平成24年度策定）。

○生体展示…生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざす。
○教育普及への活用…飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をする。
○傷病鳥獣の救護…傷ついたり病気になった野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。
○希少種の保護…希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。
○施設整備の充実…付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進める。

当館の基本理念と上記の基本方針に基づき、付属園（動植物園）では、希少野生動物繁殖事業、アルプス動物園友好提携事業（交換動物）、野生傷病鳥獣救護事業（受託事業）を実施し、それら事業にかかわり動物飼育繁殖事業を含む博物館事業（資料収集保管事業、調査研究事業、教育普及事業）を行っている。

現在、希少野生動物繁殖事業ではカモシカを飼育し、野生傷病鳥獣救護事業では大町市周辺で救護された野生動物を飼育している。なお、アルプス動物園友好提携事業での交換動物は現在飼育していない。

今後の課題として、前記の3つの事業を柱とする動物飼育繁殖事業について、今後将来へ向けた事業全体と各事業の中長期及び単年度ごとの実施計画を検討・作成して事業実施に取り組む。さらに、それらの各事業計画にしたがって、必要課題と要求課題を整理し、現代の社会情勢と市民ニーズに対応した新しい付属園のあり方を明確にした上で、動物飼育舎やカモシカ園フェンス、倉庫などのバックヤード、標示看板や園内路等を含めた施設修繕・改修等の付属園整備計画を作成し、中長期の計画的な付属園整備を実施する。

(1) 希少野生動物繁殖

当館ではニホンカモシカ、ライチョウ、イヌワシなどの希少野生動物の繁殖に取り組んできた経緯がある。現在、ニホンカモシカの飼育は行っているが、繁殖は行っていない。また、ライチョウ、イヌワシの飼育は行っていない。

①飼育動物の増減等

a. 繁殖個体

なし。

b. 死亡個体（傷病鳥獣個体は除く）

・ニホンカモシカ（オス・愛称シロ）　平成25年9月5日死亡確認。死因：老齢個体であり、老衰に起因する死亡と推測される（推定年齢22歳）。平成4年2月21日に大町市常盤西山にて個体数調整により生捕され収容した個体。

c. 転出個体

現在、ブリーディングローンとして付属園内で繁殖したニホンカモシカを富山市ファミリーパーク（メス・愛称さくら、平成 15 年～）と、埼玉県こども動物自然公園（オス・愛称クロベ、平成21年～）に各1個体貸出し中。

d. 今後の計画

ニホンカモシカについては、新たな野外個体の導入が困難なことから、若い個体の確保を目的として繁殖を行いたいが付属園の設備が整うまで計画を保留にする。また、国内動物園間でブリーディングローン等も今後行う。

②飼育動物（平成26年3月31日現在）　（単位：個体）

種　名	雄	雌	不明	計	種　名	雄	雌	不明	計
ニホンカモシカ	2(1)	5(1)		7(2)	トビ			8(8)	8(8)
ホンドタヌキ	1(1)			1(1)	フクロウ			1(1)	1(1)

ホンドギツネ	1(1)			1(1)	オオコノハズク			1(1)	1(1)
ハクビシン	2(2)	1(1)		3(3)	チョウゲンボウ	1(1)	1(1)		2(2)
					キジバト			2(2)	2(2)
					キジ	1(1)	1(1)		2(2)
					カルガモ			1(1)	1(1)
					マガモ	1(1)			1(1)
					モズ		1(1)		1(1)
計	6(5)	6(2)		12(7)	計	3(3)	3(3)	13(13)	19(19)

・哺乳類　4（4）種・12（7）個体
・鳥類　　9（9）種・19（19）個体　　合計　13（13）種・31（26）個体
※（N）の数は救護動物の種数・個体数

(2) アルプス動物園交換動物

友好提携を結んでいるオーストリア・インスブルック市のアルプス動物園から交換動物として贈られたヨーロッパ・チロル地方の野生動物（アルプスマーモット、ヨーロッパオオライチョウ、シベリアオオヤマネコ、シャモア）を昭和 60 年（1985）から平成 22 年（2011）まで飼育していたが、現在は飼育個体がいない。

(3) 傷病鳥獣救護

長野県から平成 25 年度野生傷病鳥獣救護事業委託を受け、付属園では大北地域における野生傷病鳥獣救護施設として、ケガや病気の野生動物を収容している。なお、県からの同事業委託は平成 9 年度より毎年受託している。

①収容個体

	種　名	数		保護日(収容日)	形態	処置日
哺乳類	ニホンカモシカ	1	親の死亡	(9 月 10 日)	死亡	9 月 17 日
	アブラコウモリ	1	うずくまり	1 月 16 日	放獣	5 月 2 日
	アブラコウモリ	1	うずくまり	10 月 30 日	死亡	11 月 12 日
鳥類	チョウゲンボウ	1	巣から落下	6 月 11 日	放鳥	6 月 13 日
	ツバメ	1	巣から落下	7 月 28 日	死亡	7 月 30 日
	ツバメ	2	巣から落下	7 月 29 日	放鳥	8 月 9 日
	トビ	1	うずくまり	7 月 30 日	死亡	8 月 3 日
	アオバト	1	うずくまり	10 月 21 日	死亡	10 月 22 日
	ツグミ	1	ネコの捕獲	平成 26 年 1 月 3 日	死亡	平成 26 年 1 月 4 日

②所見

死亡個体のほとんどは収容時に処置を行っても手遅れか重症の個体であり、救護収容の当日または数日後には死亡している。こうした傾向は過去の実績からも顕著であり、早期での獣医師による診療処置が不可欠と考えられる。また、半年以上収容した個体は疾病が完治しても餌付いてしまうことが多く、人工哺育した個体と同様、野外に復帰させることが困難となり、長期救護収容個体となる傾向がみられる。

2　植物栽培繁殖（担当：千葉悟志）

(1) 栽培植物

①栽培植物の増減

なし

②栽培植物

コマクサ、フクジュソウ、サクラソウ、ササユリ、ビッチュウフウロ、アズミノヘラオモダカ、イヤリトリカブト、コオニユリ、カキツバタ、クサレダマ、ミズオトギリ、エゾミソハギ、トキソウ・ミズバショウ、リュウキンカ、サワギキョウ、アカバナ

③概要

コマクサ園・湿原植物園のほか、付属園内でササユリの栽培展示を行っている。開花期を中心に解説パネルを準備し、生活史や生物間関係について紹介。

Ⅴ　その他

1　各種委員などの委嘱

大町博物館連絡会・会長（宮野典夫）
北アルプス北部地区山岳遭難防止対策協会・参与（宮野典夫）
高山植物等保護対策協議会中信地区・監査（宮野典夫）
大町市観光協会・理事（宮野典夫）
長野県博物館協議会・監査（宮野典夫）
長野県科学振興会大町支部・理事（千葉悟志）
栂池自然園地域保全委員会委員・委員長（宮野典夫）
大町市防災会議委員（小坂共栄）
長野県市民参加型モニタリング手法検討委員（千葉悟志）
長野県版レッドリスト改定委員会植物専門部会員（千葉悟志）
ライチョウ会議構成員（宮野典夫）
針ノ木慎太郎祭実行委員（宮野典夫）
大町桜まつり実行委員（宮野典夫）
北アルプス雪形まつり実行委員（宮野典夫・清水隆寿）

2　アルプス動物園との友好提携協定の締結

昭和 60 年 2 月 18 日、オーストリア・インスブルック市のアルプス動物園と当館は、次のような目的による友好提携協定について締結をした。
「同じような自然環境に囲まれたインスブルックと大町両市の市長は、その締結を大いに歓迎し、また両市民は文化をはじめさまざまな分野において、緊密な交流をはかり、それを通じて相互信頼と友好を深め、将来にわたって、インスブルック市と大町市の繁栄と幸福のために貢献する。」（同協定書より抜粋）

3　信州大学山岳科学総合研究所との研究協力協定の締結

平成 17 年 7 月 5 日、信州大学山岳科学総合研究所と当館は、次のような目的による研究協力協定について締結をした。
「山岳および大町市とその周辺地方の民俗、歴史などの資料を収集、保管、展示し一般の観覧に供し、本邦における山岳文化などの普及並びに調査研究を行う市立大町山岳博物館と、信州の自然と社会をフィールドとして、山岳及びそれに連なる里山における自然と人間の相互関係にかかわる諸問題の解決を目指した研究を行い、新しい学問領域「山岳科学」を創造しようとする信州大学山岳科学総合研究所は、相互の連携の意義を深く認識し、自然と人間の共生の諸課題探求に力をあわせて貢献するため、ここに研究協力協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

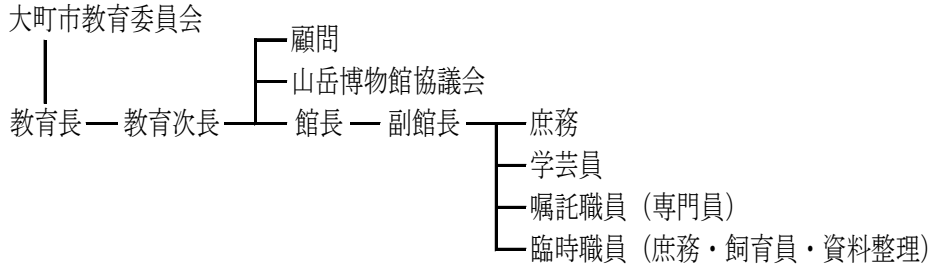
4　長野県環境保全研究所との連携・協力に関する協定の締結

平成 26 年 3 月 25 日、長野県環境保全研究所と当館は、次のような目的による連携・協力に関する協定について締結をした。
長野県を特徴づける山岳域の自然とその環境保全にかかわる諸課題の解明や解決に力をあわせて取り組むことが、学術振興や自然環境保全、そして地域の発展に重要な役割を果たすことを深く認識し、両機関が、調査研究・教育普及・人材育成等、相互協力が可能な事項について、互恵の精神に基づき具体的な連携・協力を効果的に実施することにより、学術の振興及び自然環境保全に寄与するとともに、地域の発展に貢献することを目的として連携・協力に関する協定を締結する。（同協定書より抜粋）

Ⅵ　運営

1　組織および職員構成

(1) 組織



(2) 顧問

千葉彬司

(3) 協議会委員

学校教育関係者：矢口修
社会教育関係者：宮澤洋介
学識経験者：松原繁、横川仁、鈴木啓助、佐藤悟、宮崎亮、藤沢秀
家庭教育関係者：今滝一登美、山内香代子

(4) 職員

①配置

館　長　宮野典夫
副館長　清水博文（庶務兼務）
学芸員　清水隆寿、関悟志（人文科学系）　千葉悟志（自然科学系）
専門員　小坂共栄（自然科学系）
臨時職員　北村洋子（資料整理、庶務）
　　戸谷諭美、尾関美穂、木戸きらら（動物飼育）

②人事異動

新　規　動物飼育（臨時職員）木戸きらら（平成 25 年 4 月 1 日）

2　協議会

(1) 第 1 回協議会

①日時：平成 25 年 10 月 28 日（月）13：30～15：30
②場所：山岳博物館　講堂
　　出席者：藤沢秀、宮澤洋介、矢口修、松原繁、鈴木啓助、今滝一登美、山内香代子
　　佐藤悟
③内容：
・委員全員に委嘱書交付
・協議会正副会長の選出
　宮澤委員を会長に、今滝委員を副会長に全員一致で決定
・報告
　平成 25 年度の主要事業について
　本館展示改修及び耐震改修工事について
・協議
　山岳博物館付属園整備計画について
　平成 26 年度事業計画について

3　耐震補強工事及びユニバーサルデザイン工事

(1) 山岳博物館耐震・改修工事（全体調整：清水博文）

前年度において荒山設計事務所により耐震・改修工事に関する設計を実施し、それに基づき本年度耐震・改修工事を実施した。耐震・改修工事施工業者の選定にあたっては、平成 25 年 10 月 2 日に一般競争入札（電子入札）により決定され、㈱岡澤組に落札された。請負額は 43,081,500 円（税込み）で、工期は平成 25 年 10 月 10 日～平成 26 年 3 月 26 日。

今回の博物館耐震・改修工事の範囲は、鉄筋コンクリート造地下 1 階・地上 3 階建、延床面積 2,207.00 ㎡に及び、工事内容は耐震補強工事、改修工事（便所改修工事、出入口自動ドア化工事、授乳室設置工事ほか）、キューピクル改修工事を実施した。

なお工事期間中、山岳博物館は休館（臨時休館日：平成 25 年 11 月 3 日～平成 26 年 3 月 28 日）とし対応した。

4　入館者状況

(1) 過去の入館者状況　（単位：人）

年度	有料入館者							無料入館者				合計
	個人			団体			小計	一般減免	市内		小計	
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65 歳以上	小中生		
S26	291		100	21		77	489					489
27	2,425		1,022	186		1,514	5,147					5,147
28	8,922		2,229	725		1,216	13,092					13,092
29	7,779		1,831	625		1,189	11,424					11,424
30	6,831		1,664	1,445		945	10,885					10,885
31	2,148		888	1,036		858	4,930					4,930
32	1,934		658	826		1,880	5,298					5,298
33	2,979		1,032	1,469		2,417	7,897					7,897
34	2,972		626	1,727		1,788	7,113					7,113
35	3,635		878	1,943		2,143	8,599					8,599
36	4,181		1,329	2,132		2,521	10,163					10,163
37	5,313		1,633	4,549		2,748	14,243					14,243
38	6,394		1,854	4,727		2,918	15,893					15,893
39	10,464		1,658	12,600		1,520	26,242					26,242
40	14,214		1,696	8,050		1,600	25,560					25,560
41	10,399		1,711	13,070		1,500	26,680					26,680
42	12,891		1,649	8,301		3,059	25,900					25,900
43	18,458		2,071	17,769		3,240	41,538					41,538
44	16,273		2,100	10,845		3,749	32,967					32,967
45	13,405		1,941	11,623		3,960	30,929					30,929
46	18,414		3,001	14,718		3,193	39,326					39,326
47	17,500		3,025	13,268		6,877	40,670					40,670
48	25,809		4,178	22,612		5,774	58,373					58,373
49	28,702		4,277	23,432		5,843	62,254					62,254
50	32,345		4,896	23,616		6,835	67,692					67,692
51	32,111		5,142	25,150		8,200	70,603					70,603
52	26,155		4,311	18,907		5,327	54,700					54,700
53	26,346		4,158	24,903		8,722	64,129					64,129
54	27,769		4,485	25,089		6,600	63,943					63,943

55	25,743		4,414	19,909		6,972	57,038					57,038
56	31,697		7,558	16,182		9,695	65,132					65,132
57	31,894	809	6,400	10,391	5,827	6,929	62,250	7,965			7,965	70,215
58	33,590	988	6,632	15,885	7,992	12,303	77,390	9,026			9,026	86,416
59	30,335	816	5,905	12,969	9,172	15,070	74,267	8,117			8,117	82,384
60	36,686	1,142	8,025	22,782	8,559	15,902	93,096	6,770			6,770	99,866
61	34,797	1,086	6,109	16,001	8,107	16,069	82,169	4,509			4,509	86,678
62	33,132	918	5,581	18,751	7,065	17,186	82,633	3,605			3,605	86,238
63	36,116	841	5,932	14,947	6,085	14,735	78,656	6,269			6,269	84,925
H1	41,018	1,199	6,450	13,191	4,650	10,527	77,035	3,709			3,709	80,744
2	43,444	1,108	6,752	16,486	3,045	7,119	77,954	4,844			4,844	82,798
3	47,004	1,276	7,313	13,817	4,212	8,278	81,900	4,577			4,577	86,477
4	42,197	725	5,719	13,068	1,687	7,015	70,411	3,413			3,413	73,824
年度	有料入館者							無料入館者				合計
	個人			団体			小計	一般減免	市内		小計	
	大人	高校	小中	大人	高校	小中			65歳以上	小中生		
5	45,182	809	5,807	12,249	2,807	5,325	72,179	3,587			3,587	75,766
6	38,354	933	4,809	10,561	1,932	4,974	61,563	3,376			3,376	64,939
7	37,356	981	4,650	9,493	1,840	4,164	58,484	5,376			5,376	63,860
8	36,002	869	4,189	6,601	1,905	2,244	51,810	2,174			2,174	53,984
9	31,119	626	3,417	7,626	1,245	2,100	46,133	1,429			1,429	47,562
10	28,219	637	3,105	6,023	764	2,006	40,754	1,686			1,686	42,440
11	24,220	482	2,200	4,766	561	1,183	33,412	1,206			1,206	34,618
12	23,082	501	2,273	5,344	648	1,024	32,872	1,187			1,187	34,059
13	24,064	439	2,163	3,389	671	1,577	32,303	1,497	387	826	2,710	35,013
14	20,527	472	1,744	2,518	675	808	26,744	1,013	191	451	1,655	28,399
15	19,693	535	2,152	2,184	785	1,082	26,431	990	285	616	1,891	28,322
16	14,664	376	1,073	2,875	602	644	20,234	604	51	662	1,317	21,551
17	12,065	213	630	3,138	692	928	17,666	1011	97	491	1,599	19,265
18	14,056	135	996	3,120	545	1,836	20,688	1,825	162	688	2,675	23,363
19	10,991	120	742	2,401	407	1,037	15,698	1,087	94	693	1,874	17,572
20	11,532	130	803	2,766	381	578	16,190	1,518	188	619	2,325	18,515
21	11,269	100	704	3,055	61	1,098	16,287	1,164	143	348	1,655	17,942
22	9,578	103	594	2,665	466	467	13,873	955	116	203	1,274	15,147
23	12,363	127	855	2,963	328	1,396	18,032	2,032	146	819	2,988	21,020
24	9,818	144	640	2,344	498	587	14,001	1,255	94	783	2,132	16,133
25	7,550	97	522	2,008	142	353	10672	970	162	432	1.565	12,237
計	1,296,425	19,707	192,901	597,823	84,356	281,424	2,472,636	98,776	2,116	7,631	108,524	2,581,160

(2) 平成25年度の入館者状況　　（単位：人）

月	有料入館者							無料入館者			小計	合計
	個人			団体			小計	一般減免	市内			
	大人	高校	小中生	大人	高校	小中生			65歳以上	小中生		
4	808	4	42	156	1	2	1,013	132	14	46	192	1,205
5	1,076	7	43	304	0	90	1,520	209	3	46	258	1,778
6	573	2	10	290	0	54	929	50	3	37	90	1,019

7	1,073	16	75	292	133	120	1,709	122	2	7	131	1,840
8	1,758	57	231	414	8	70	2,538	138	11	10	159	2,697
9	898	6	45	145	0	6	1,100	103	43	42	188	1,288
10	1,018	2	28	353	0	9	1,410	95	70	213	378	1,788
11	167	1	9	54	0	2	233	63	1	0	64	297
12	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
1	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
2	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
3	179	2	39	0	0	0	220	7	15	8	30	250
計	7,550	97	522	2,008	142	353	10672	970	162	432	1.565	12,237
前年	9,818	144	640	2,344	498	587	14,001	1,255	94	783	2,132	16,133
前年度比	77%	85%	82%	77%	29%	60%	76%	77%	172%	55%	73%	76%

平成 25 年 11 月 5 日～平成 26 年 3 月 28 日は耐震補強工事及び展示改修業務のため臨時休館

(3) 平成 25 年度の開館日数

199 日

5　平成 25 年度予算・決算

(1) 歳入　　（単位：円）

項　目	観覧料	望遠鏡使用料	県委託金	寄付金	雑　入	市債	計
当初予算	4,675,000	43,000	200,000	1,000,000	251,000	57,000,000	63,169,000
決算額	3,944,750	51,100	266,000	45	390,435	55,700,000	60,352,330
	△730,250	8,100	66,000	△999,955	139,435	△1,300,000	△2,816,670

(2) 歳出　　（単位：円）

項目	一般職員 人件費	管理運営 一般経費	教育普及 事業	調査研究 事業	資料収集 保管事業
当初予算	29,391,000	23,012,000	6,760,000	211,000	2,877,000
決算額	29,040,446	21,884,669	4,579,904	145,332	2,366,040
	△350,554	△1,127,331	△2,180,096	△65,668	△510,960

項目	動植物飼育 栽培事業	展示改修事業	耐震事業		計
当初予算	8,858,000	60,250,000	43,000,000		174,359,000
決算額	8,212,682	58,670,000	43,396,500		168,295,573
	△645,318	△1,580,000	396,500		△6,063,427

Ⅶ　関係条例規則

1　市立大町山岳博物館条例

昭和 57 年 3 月 29 日
条例第 12 号

改正　昭和 61 年 3 月 24 日条例第 8 号　　平成元年 3 月 24 日条例第 7 号
平成 4 年 3 月 31 日条例第 8 号　　平成 5 年 12 月 24 日条例第 32 号
平成 12 年 3 月 29 日条例第 13 号　平成 13 年 3 月 27 日条例第 13 号

市立大町山岳博物館条例（昭和 29 年条例第 18 号）の全部を改正する。

（目的）

第 1 条　この条例は、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号。以下「法」という）第 18 条及び地　方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の 2 第 1 項の規定に基づき、市立大町山岳博物館（以下「博物館」という）の設置及び管理運営に関し、必要な事項を定めることを目的と　する。

（設置）

第 2 条　山岳に関する資料並びにこの地方における民俗、歴史その他の資料を収集して、保管又は展示し、一般の観覧に供し、本邦における山岳文化等の普及並びにこれらの資料の調査研究を行うため博物館を設置する。

（名称及び位置）

第 3 条　博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

市立大町山岳博物館　大町市大町 8056 番地 1

（職員）

第 4 条　法第 4 条の規定による館長、学芸員のほか必要な職員を置く。

2　必要に応じ顧問及び嘱託員を置くことができる。

（観覧料）

第 5 条　博物館を観覧しようとする者は、別表第 1 に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、次に掲げる者は、この限りでない。

(1) 6 歳未満の者
(2) 市内の小学校及び中学校に在学する児童又は生徒
(3) 市内に住所を有する満 65 歳以上の者

（使用料）

第 6 条　博物館の設備使用料は、別表第 2 に定めるとおりとする。

（観覧料の減免）

第 7 条　大町市教育委員会（以下「教育委員会」という）は、特別な理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる。

（資料の特別利用）

第 8 条　博物館資料を学術研究等のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

（賠償責任）

第 9 条　故意又は過失により、博物館の資料、施設等を破損し、又は滅失したときは、教育委員会の命ずるところにより、これを原状に復し、又は損害を賠償しなければならない。

（博物館協議会）

第 10 条　法第 22 条の規定により、市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という）を設置する。

2　協議会の委員（以下「委員」という）の数は、15 人以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

(1) 学校教育及び社会教育の関係者
(2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
(3) 学識経験のある者

(4) 公募による市民等
3　委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（委任）
第11条　この条例に定めるもののほか必要な事項は、教育委員会が別に定める。
附　則
1　この条例は、昭和57年6月5日から施行する。
2　この条例施行の際、現に市立大町山岳博物館条例（昭和29年条例第18号）第5条の規定により委員として委嘱された者は、この条例第10条の規定により委嘱されたものとみなし、任期は、同条第3項の規定にかかわらず、昭和58年3月31日までとする。
附　則（昭和61年3月24日条例第8号）
この条例は、昭和61年4月1日から施行する。
附　則（平成元年3月24日条例第7号）
この条例は、平成元年4月1日から施行する。
附　則（平成4年3月31日条例第8号）
この条例は、平成4年4月1日から施行する。
附　則（平成5年12月24日条例第32号）
この条例は、平成6年4月1日から施行する。
附　則（平成12年3月29月条例第13号）
この条例は、平成12年4月1日から施行する。
附　則（平成13年3月27日条例第13号）
この条例は、平成13年4月1日から施行する。
附　則（平成17年12月6日条例第30号）
この条例は、平成18年1月1日から施行する。
附　則（平成24年3月26日条例第3号）
この条例は、平成24年4月1日から施行する。

別表第1（第5条関係）

種別	区分	単位	観覧料
一般	大人	1人	400円
	高校生	〃	300
	小人	〃	200
団体 (30人以上の場合をいう)	大人	〃	350
	高校生	〃	250
	小人	〃	150

備考　特別の資料を展示する場合は、1,000 円の範囲内においてその都度教育委員会が定める額とする。

別表第2（第6条関係）

望遠鏡使用料	1回	100円

2　市立大町山岳博物館規則

昭和 57 年 3 月 30 日
教育委員会規則第 3 号

改正　平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号　平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号
平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号

（趣旨）
第 1 条　地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 33 条第 1 項及び市立大町山岳博物館条例（昭和 57 年条例第 12 号。以下「条例」という）第 11 条の規定に基づき、市立大町山岳博物館（以下「博物館」という）の管理運営並びに市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。
（職務）
第 2 条　館長は、上司の命を受け、館を統括し、所属職員を指揮監督する。
2　学芸員は、館長の命を受け、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 4 条第 4 項に規定する職務を遂行する。
3　その他の職員は、館長の命を受け、職務を遂行する。
4　館長を補佐するため、副館長を置くことができる。副館長は、係長相当職をもって充てる。
5　嘱託員は、学術に関する職務に従事する。
（休館日）
第 3 条　博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、臨時に開館又は休館することができる。
(1)　毎週月曜日
(2)　国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日の翌日（この日が月曜日に当たるときは、その翌日）
(3)　12 月 29 日から翌年 1 月 3 日までの日（前号に掲げる日を除く）
（開館時間）
第 4 条　博物館の開館時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めたときは、これを変更することができる。
（観覧券の交付）
第 5 条　条例第 5 条の規定による観覧料の納付があったときは、観覧券（様式第 1 号）に領収印を押印し、交付するものとする。
（観覧料の減免）
第 6 条　条例第 7 条の規定による観覧料の減免を受けようとする者は、博物館観覧料減免申請書（様式第 2 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。
（博物館資料の利用等）
第 7 条　条例第 8 条の規定により博物館の資料を利用しようとする者は、市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書（様式第 3 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。
2　前項の規定による資料の利用期間は、30 日以内とする。ただし、教育委員会が必要と認めた場合は、延長することができる。
（入館制限等）
第 8 条　教育委員会は、次の一に該当するときは、入館を拒否し、退館を命じ、又は許可を取り消し、その他必要な措置を講ずることができる。
(1)　公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
(2)　管理上支障があると認められるとき。
(3)　その他教育委員会が必要と認めるとき。
（資料の寄贈及び寄託）
第 9 条　博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。資料を寄贈及び寄託しようとする者は、博物館資料寄贈・寄託書（様式第 4 号）を教育委員会に提出するものとする。
2　寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。

3　博物館は、寄託を受けた博物館資料が災害その他不可抗力によって滅失又は損傷した場合は、損害賠償の責を負わない。
4　寄贈又は寄託を受けた博物館資料は、一般の資料と同一の取扱いをするものとする。
（資料等の滅失・損傷）
第 10 条　館長は、博物館の資料、施設等が滅失又は損傷したときは、速やかに教育委員会に報告し、その指示を受けなければならない。
（協議会の組織）
第 11 条　協議会に、委員の互選による会長及び副会長各１名を置く。
2　会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
3　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
（協議会の会議）
第 12 条　協議会の会議は、館長の諮問により会長が招集する。
2　協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
3　会議の議決は、出席委員の過半数の賛成がなければならない。

附　則
1　この規則は、昭和 57 年 6 月 5 日から施行する。
2　市立大町山岳博物館規程（昭和 29 年教育委員会規則第 9 号）及び市立大町山岳博物館協議会規程（昭和 29 年山岳博物館規程第 1 号）は、廃止する。
附　則（平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号）
　この規則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号）
　この規則は、平成 10 年 1 月 1 日から施行する。
附　則（平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号）
　この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。
様式（省略）

3　大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱

平成 17 年 7 月 7 日
教育委員会告示第 8 号

（趣旨）
第 1　大町市におけるライチョウ保護事業の計画を策定するため、大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。
（所掌事務）
第 2　委員会は、ライチョウの保護事業に関する計画の策定及びその他計画策定上必要な事項を検討するものとする。
（組織）
第 3　委員会は、委員 10 人以内で組織し、学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。
（任期）
第 4　委員の任期は、ライチョウ保護事業計画の策定業務が終了するまでとする。
第 5　委員会に委員長及び副委員長各 1 人を置き、委員が互選する。
２　委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
３　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。
（オブザーバー）
第 6　委員会にオブザーバーを置くことができる。
２　オブザーバーは、ライチョウの保護事業に関し、必要な意見を述べることができる。
（会議）
第 7　委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。
２　委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。
（事務局）
第 8　委員会の事務局は、市立大町山岳博物館に置く。
（補則）
第 9　この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附　則

この告示は、告示の日から施行する。

Ⅷ　山岳博物館の使命

平成 23 年 10 月

1　市立大町山岳博物館創立 60 周年を機に

市立大町山岳博物館は、昭和 26 年 11 月 1 日に創立し、今年で 60 周年を迎えた。昭和 24 年の設立趣旨には「地方文化の興隆」「信州文化の粋たる山岳文化の殿堂」「中部山岳国立公園の施設」「山岳の観光案内所としての博物館」「山岳博物館の立地条件を充たす大町」があげられており、当時の地域住民の博物館建設へ寄せた熱意と献身的な活動により山岳博物館が誕生した。

大町市は、山岳博物館創立 50 周年（平成 13 年）をきっかけに、21 世紀にふさわしい山岳文化の発展と創造をめざすべく「山岳文化都市宣言」を行った。

山岳博物館を誕生させた母なる北アルプスの雄大な姿は、将来、社会情勢がいかに変化し、科学技術が進歩しようとも、今と変わらず大町市民にとって常に身近な存在であり続けるであろう。

私たちは創立 60 周年を機に、あらためて設立当初の精神に立ち返り、「山岳文化都市宣言」の基本的理念を尊重しながら、これからの山岳博物館のあるべき姿を考えていく。

2　平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本理念

市立大町山岳博物館の存在意義や社会に対する使命（責務）は次のとおりである。

大町市は、「美しく豊かな自然文化の風薫る　きらり輝くおおまち」をめざし、市民あるいは市内を訪れる方などのために、生涯学習の支援と推進や社会教育の充実と活性化を進めている。

これを達成するために、市立大町山岳博物館（以下、山岳博物館）は、「自然と人とが共生する「山岳文化都市」の形成につながるあらゆる活動を充実させ、地域の博物館としての機能の充実を図る。その核となる活動は、北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する調査研究を基礎として、それに関わる資料の収集・整理、保存・管理することであり、これらを活用した次のような教育普及活動を推進することである。

(1) 大町市や周辺地域の人たちのために

①郷土の自然や文化を見つめ直し、この地域ではこれまでどんなことがあったのか、今どうなっているのかを知り、これから将来はどうなるのかを考える場所を提供する。

②この地域にどのような価値があるかを知っていただき、郷土に誇りを持つことができる機会や場所を提供する。

③郷土の自然と文化に接し、心の豊かさを感じ、学ぶことの楽しさや大切さを味わって活動し、それを表現できるような機会や場所を用意する。

④豊かな自然環境を護り、自然と共存することの大切さを理解できるような場所や機会を提供する。

⑤博物館を中心にして、動植物園、遊歩道、園地、売店などいろいろな施設を充実させ、ここがゆっくりとくつろげて、楽しめる場所であるという考え方を大切にする。

(2) 大町市を訪れる人たちや北アルプスとその山麓地域の自然と文化を知りたい人たちのために

①観光客･登山者をはじめ北アルプスとその山麓地域の自然と文化について､関心を持つすべての人々の学習のきっかけをつくる手助けをする。

②「山岳文化都市」づくりの中核を担う施設として、北アルプス周辺のフィールドへといざなう窓口となる。

③大町市をはじめ、県内外にひろく「自然と人とが共生する山岳文化」の情報を発信し、さらなる山岳文化の創造を進める。

3　平成 24 年度からの山岳博物館の基本方針

(1) 調査研究の推進

博物館の立地条件を生かし、学術研究や社会教育機関としての機能を高めるため、国・県や各種研究機関と連携した調査や研究を推進する。

①調査・研究の分野・範囲

北アルプスを中心とした山麓から高山までの地域と、それに関連した人文・自然科学分野の調査研究に重点をおく。

②情報収集
調査・研究のため、また利用者のさまざまな要求に応え、多くの人に資料や情報を利用していただけるように、国内外から多くの情報を集める。
③体制づくり
国や地方自治体、大学などの各種研究機関や市民と連携した調査研究を進める。
(2)資料の収集・整理、保管の推進
北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する情報発信の核となるよう、また、教育普及活動に活用できるよう、博物館で取り扱うことがらを定めて、それに沿った資料・情報の収集・整理、保管を推進する。
①収集・整理の推進
早急に記録にとどめ、保存が必要と考えられる資料を最優先に収集し、記録、整理をおこない、山岳博物館における情報発信の核とする。
②収集の範囲
山岳、特に北アルプスを中心とした山麓周辺から高山までの地域とそれらに関連した海外の人文・自然科学分野に関する資料（有形・無形を含めた事物や事象）の収集をおこなう。
③保存・管理の推進
収集された資料は適正に管理された環境おいて保管され、品質の劣化を防ぎ、将来の資産とする。
(1)調査研究の成果および収集資料の活用
調査・研究の成果や博物館の資料を十分に活かした活動を進める。
①調査・研究の成果活用
調査研究の成果を常設展示や企画展示に反映させ、各種の教育普及活動に有効活用する。
②収集・保管の成果活用
収集した資料を対象に調査研究を進めるとともに、展示の基礎資料とし、各種の教育普及活動にも有効活用する。
③保護・保全への貢献
調査研究の成果は、地域において学術的・歴史的価値の高いもの、あるいは環境・景観等の保全・保護に役立てる。
④体制づくり
山岳の自然と文化に関する各種情報を集め、山岳情報のネットワークをつくる。
(4)教育普及活動の推進
地域の恵まれた自然・文化に関するフィールドや博物館の資料・情報をわかりやすくて興味が持てるように示す。また、それを通して新しい発見、驚き、関心が得られるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。
①生涯教育・社会教育の推進
博物館の資料や、山麓から高山にかけての恵まれたフィールド環境を生かし、子供から大人まで幅広く参加できるような魅力ある活動を展開する。そして、それらの活動が、知的欲求を一時的に充たすだけでなく、生涯にわたって持続できるきっかけづくりになるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。
②学社連携・融合の推進
学校と博物館を結んだ事業を積極的におこない、児童・生徒・（先生）の学習の場とし、関心を持つきっかけづくりをする。
③協働の推進
国や県をはじめとする大学や研究所・博物館・動植物園など、国内外の機関と連携した活動を展開するとともに、地域の情報を取り入れて市民との協働の活動を推進する。
(5)付属園（動植物園）の充実
付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やしたり、研究をしたりしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培･飼育し､生きている姿を見てもらうという考え方を大切にする。
①生体展示
生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざす。
②教育普及への活用

飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をする。

③傷病鳥獣の救護

傷ついたり病気になった野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。

④希少種の保護

希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。

⑤施設整備の充実

付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進める。

Ⅸ　施設

1　敷地面積

41,575.69 ㎡（都市公園としての開設面積）市有地：38,493.15 ㎡、民有地：3,082.54 ㎡

2　本館建物

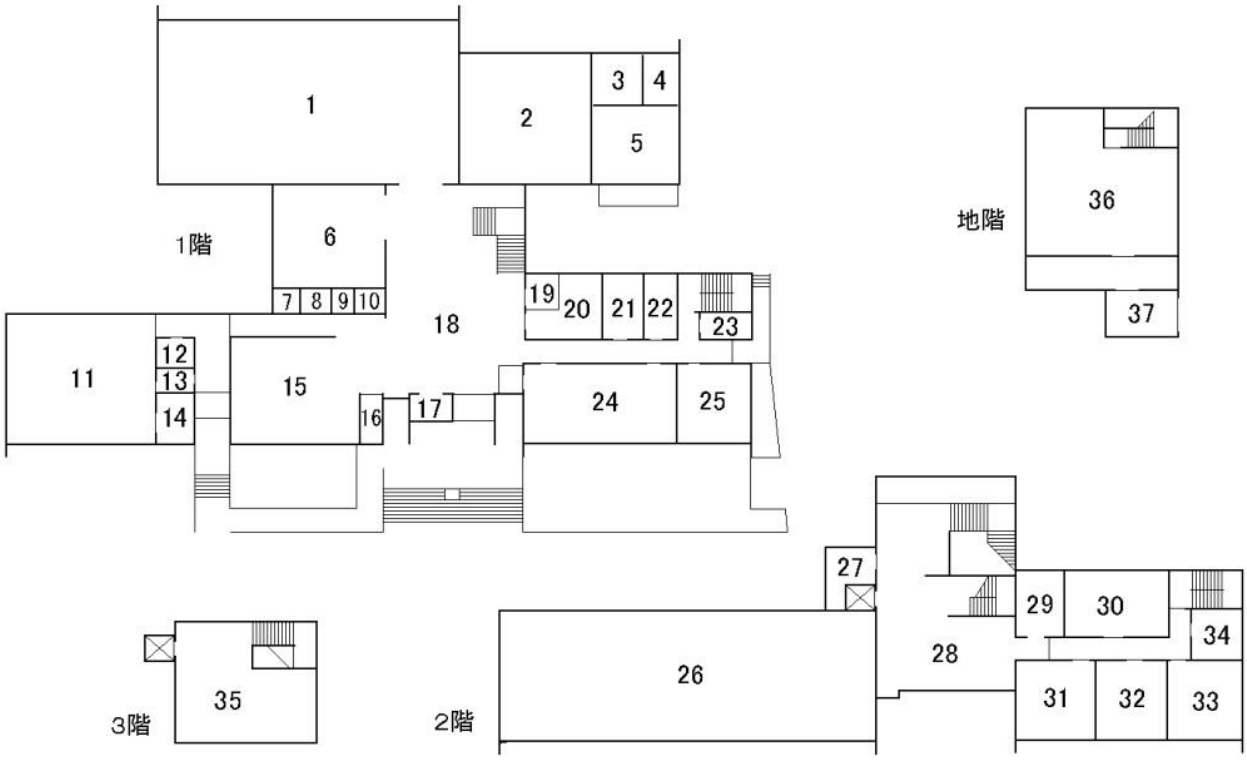
(1) 構造：鉄筋コンクリート造　地上3階 地下1階
(2) 竣工：昭和57年5月31日竣工
(3) 面積：建築面積　　1,280.9 ㎡　　延べ床面積 2,207.0 ㎡
(4) 床面積表　　（単位：㎡）

1階　1244.9					
名　称		面積	名　称		面積
1	展示室	290.0	14	準備室	9.1
2	収蔵庫	104.0	15	ｶﾌｪ･ｼｮｯﾌﾟ	74.2
3	ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室	16.4	16	授乳室	6.7
4	燻蒸室	12.3	17	荷物置場	14.4
5	荷解作業室	41.3	18	ホール	116.9
6	特別展示室	70.4	19	多目的ﾄｲﾚ	6.5
7	EV機械室	6.0	20	女子ﾄｲﾚ	22.5
8	倉　庫	3.5	21	書　庫	16.7
9	倉　庫	3.0	22	更衣室	14.6
10	E.V	5.1	23	倉　庫	8.8
11	講　堂	110.2	24	事務室	69.6
12	ﾄｲﾚ	8.1	25	休憩室	32.5
13	倉　庫	5.4	廊下、階段等		109.2

2階　686.1					
名　称		面積	名　称		面積
26	展示室	290.0	31	研究室	34.8
27	ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室	14.9	32	資料庫	34.8
28	展示室	113.6	33	図書室	34.8
29	男子ﾄｲﾚ	18.2	34	資料庫	16.0
30	収蔵庫	42.1	廊下階段等		86.9

3階　116.8				
名　称		面積	名　称	面積
35	展示室	94.6	階段	22.1

地階　159.2				
名　称		面積	名　称	面積
36	機械室	118.8	階段	17.4
37	車　庫	23.0		



3　付属施設

(1) 付属園（本館隣）

①施設の概要　　敷地面積：39,875.92 ㎡

②建物の概要（建設年度順）　※B-5・8・10 については放飼場の面積を除く

施設名および面積（築年度）		施設名および面積（築年度）		施設名および面積（築年度）		施設名および面積（築年度）	
B-1	28.20（S38→S55 移設）	A-6	42.85（S49）	B-6	18.99(S61)	B-9	34.83(H3,4)
B-2	13.93（S38→S55 移設）	A-7	20.26（S51）	B-7	46.5(S61)	B-10	5.2（H3）
A-1	33.44（S42,43）	A-8	11.55（S53）	B-8	26.92(H1)	B-11	67.65(H4)
A-3	15.24（S48）	B-3	22.62（S53）	B-6	18.99(S61)	B-12	44.88(H7)
A-4	16.20（S48→S55 移設）	B-4	39.63（S54,55）	B-7	46.5(S61)	A-10	52.00(H21)
A-5	33.44（S49）	A-9	15.70(S57)	B-8	26.92(H1)		

(2) 山岳図書資料館（本館隣）

①施設の概要

・構造・規模：鉄骨造　地上 2 階

・竣工・開館：平成 24 年 3 月 2 日竣工　平成 24 年 4 月 20 日開館

・各　面　積：敷地面積 498.21 ㎡　建築面積 59.96 ㎡

延床面積 117.45 ㎡（1 階 58.725 ㎡、2 階 58.725 ㎡）

・設備・備品：ハンドル式移動書架（各種）20 基　固定式書架（各種）25 基　ほか

Ⅹ　利用案内（平成 26 年 3 月 31 日現在）

1　開館時間　午前 9 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

2　休館日　　毎週月曜日、国民の祝日・振替休日の翌日、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）
　　※月曜日が祝日・休日の場合は開館し、翌日休館　7 月・8 月は無休

3　交通　　公共機関　JR 信濃大町駅から　タクシー5 分、徒歩 25 分
　　車　長野自動車道安曇野 IC から 40 分
　　（北アルプスパノラマロード経由 白馬方面へ 28 km）
　　※博物館前に無料駐車場（普通車 30 台・大型バス 5 台収容）

4　観覧料

区　分	大　人	高校生	小・中学生
個　人	400 円	300 円	200 円
団　体（30 名様以上）	350 円	250 円	150 円

5　ユニバーサルデザイン
　　入口スロープ、入口階段手すり、玄関自動ドア、多目的トイレ、授乳室、車イス対応エレベーター、貸出用車イス・ベビーカー、アシスタントドッグ同伴可能

6　所在地および連絡先
　　〒398-0002　長野県大町市大町 8056－1
　　（標高：766m、経緯：北緯 36 度 30 分、東経 137 度 52 分）
　　TEL：0261-22-0211／FAX：0261-21-2133
　　E-mail：sanpaku@city.omachi.nagano.jp
　　URL：http://www.omachi-sanpaku.com

市立大町山岳博物館　平成 25 年度　年報

平成 26 年 8 月 1 日発行
編集･発行　市立大町山岳博物館
〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1
TEL:0261-22-0211/FAX:0261-21-2133
印刷･製本　北辰印刷㈲
〒398-0002　長野県大町市大町桜田町 3871-1
TEL:0261-22-3030　/　FAX:0261-22-2010

この印刷物は再生紙を使用し、石油溶剤の代わりに大豆油を使用した大豆インキで印刷しています。